

授業計画（シラバス）

生活プロデュース学科

2年

クリックすると該当のページへジャンプします

- ・ゼミナールⅡ（水上）
- ・ゼミナールⅡ（太田）
- ・ゼミナールⅡ（大橋）
- ・ゼミナールⅡ（吉川）
- ・ゼミナールⅡ（小泉）
- ・ゼミナールⅡ（佐藤）
- ・ゼミナールⅡ（小出）
- ・ゼミナールⅡ（林）
- ・ゼミナールⅢ（水上）
- ・ゼミナールⅢ（太田）
- ・ゼミナールⅢ（大橋）
- ・ゼミナールⅢ（吉川）
- ・ゼミナールⅢ（小泉）
- ・ゼミナールⅢ（佐藤）
- ・ゼミナールⅢ（小出）
- ・ゼミナールⅢ（林）
- ・女性のライフスタイル論
- ・オフィスワーク総論
- ・メディカルクラークⅠ
- ・メディカルクラークⅡ
- ・サービス介助演習B
- ・マテリアル論
- ・ファッションと生活
- ・テキスタイルテスト
- ・アパレルメイキング実習
- ・インテリアファブリックス
- ・リビングケア
- ・コーディネート演習
- ・アパレル企画演習
- ・ファッションプロデュース
- ・消費者調査法
- ・ブライダルコーディネート
- ・栄養学B
- ・運動科学
- ・栄養科学
- ・調理学
- ・食品の流通・消費
- ・食の企画と演出
- ・食品衛生学
- ・食品加工学
- ・フードスペシャリスト論
- ・食品評価演習
- ・インテリア設計Ⅱ
- ・インテリア販売
- ・インテリアデザインプロデュース
- ・インテリア構法
- ・インテリア設計Ⅲ
- ・家族とインテリア
- ・インテリア雑貨とファニチャーデザイン
- ・食空間コーディネート演習
- ・創作絵本の制作
- ・子どもの食生活（演習含む）
- ・ユニバーサルファッションの演習
- ・子どものワークショップ演習Ⅱ
- ・社会福祉論
- ・心理学B
- ・子ども・教育・社会
- ・現在家族と子ども
- ・手話入門

科目名 (英語名)	ゼミナールⅡ Living Science Seminar Ⅱ		科目コード 262035	(ふりがな) 担当者	みず がみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] ゼミ専用ファイルを用意してください。						
[授業の具体的到達目標] デザインコンテストの応募を通してユニークな発想をオリジナルデザインにまとめていく力を身につけます。 イベント(インテリアデザインショー)を通して他者と関わりながら企画・実践力を磨きます。						
[授業の概要] 生活用品又は雑貨デザインのコンテストに応募します。また、インテリアデザインショーの企画・製作・演出を通して、各自が責任ある立場(プランナー、エディター、コーディネーター、デザイナー、プロデューサー 他)で活躍し、自己PRの道具を増やします。						
[授業計画]						[担当]
1回	過去のゼミ成果の点検と今年度の目標設定、デザインコンペについてブレインストーミング					
2回	イベント企画づくり、グループの意思決定体験1、デザインコンテストにチャレンジ(毎回共通)					
3回	イベント企画づくり、グループの意思決定体験2					
4回	湘北祭の参加企画づくり1					
5回	湘北祭の参加企画づくり2					
6回	イベント企画・提案書の作成、展示物の製作1					
7回	イベント企画・提案書の作成、展示物の製作2					
8回	イベント企画・提案書の作成、展示物の製作3					
9回	イベント企画・提案書の作成、展示物の製作4					
10回	イベント実施に向けての準備1					
11回	イベント実施に向けての準備2					
12回	イベント実施に向けての準備3					
13回	イベント実施に向けての準備4					
14回	イベント実施に向けての準備5					
15回	イベント実施、振り返り、後片付け					
試験等	試験は行わない、イベントの振り返りレポートを提出					
[成績評価] 取組度 60%(各プロジェクトに対する取り組み、チーム貢献度)、学習度 40%(成果品、作品)で総合的に判断する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] プロジェクト全体を見据えながら担当部分をしっかり予習・復習して授業に臨むこと(スケジュール管理は必須)。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] マルチメディアの利用：図書館のパソコン(Mac book Pro)を使って作品づくりを行う。必要に応じて授業開始前に準備のこと。 オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	ゼミナールII SEMINAR II		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤
			262035			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] ファッションショー開催が目標です。 1人で作るのではなく、2人で作ることで、コミュニケーション力、技術力を高めます。						
[授業の概要] ファッションショーの開催を目標にカジュアルドレス、パーティドレス、ウエディングドレスなど興味のある服をオリジナルデザインで作ります。 ドレスの製作状況によっては、夏休みに来て製作してもらいます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					太田
2回	ファッションショーのグループ分け、テーマの設定、モデルの決定					太田
3回	様々なファッションショーでのドレスのデザインを探る					太田
4回	モデルに合わせたドレスデザイン1					太田
5回	モデルに合わせたドレスデザイン2					太田
6回	ファッションショーのドレス製作のための基礎である体型の測定					太田
7回	ドレーピングによる形づくり					太田
8回	型紙の製図1					太田
9回	型紙の製図2					太田
10回	型紙のデザイン変更					太田
11回	シーチングによるサンプルづくり1					太田
12回	ドレス製作					太田
13回	ドレス製作					太田
14回	ドレス製作					太田
15回	ドレス製作					太田
試験等	試験は行いません。製作物、提出レポートで評価します。					
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、 製作物 50% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったか、グループ内での作業分担などという点も考慮して評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] ドレスの製作等、準備のため空き時間に作業することがあります。 ドレス等に使用する布は自分で買いに行ってもらいます。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp 就職等の相談も受け付けます。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅡ SEMINAR Ⅱ		科目コード 262035	(ふりがな) 担当者	おおはし すみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 主体的にかつ積極的に取り組む姿勢を求めます。						
[授業の具体的到達目標] ①将来の目標を定め、就職活動などの準備やスケジュール管理を含めて、自身をプロデュースする力を身につける。 ②インテリアデザインショーを通じて、イベント企画・準備・発表のプロセス体験と、一つのものを協同で作り上げる 協調性と身につける。 ③プレゼンテーション手法を習得する。						
[授業の概要] ①企業研究、応募方法および採用試験などの就職活動のための準備、個別指導を含めて就職活動のための支援を行う。 ②インテリアデザインショーの空間装置制作と発表を行う ③129 教室インテリアショールームディスプレイを行う ④デザインショーに用いる家具や小物の購入。						
[授業計画] ※授業の進行状況によって変わることがあります。						[担当]
1回	就職支援1					
2回	就職支援1					
3回	ゼミ課題説明・役割分担決定・見学会企画					
4回	インテリアデザインショー制作など1 / 就職支援 / ショールームディスプレイ1					
5回	インテリアデザインショー制作など1 / 就職支援 / ショールームディスプレイ2					
6回	インテリアデザインショー制作など2 / 就職支援 / ショールームディスプレイ3					
7回	インテリアデザインショー制作など3 / 家具屋見学企画 / 就職支援					
8回	インテリアデザインショー制作など4 / 家具屋見学企画 / 湘北祭企画					
9回	家具屋へ見学・購入					
10回	インテリアデザインショー制作など5 / 就職支援 / ショールームディスプレイ4					
11回	インテリアデザインショー制作など6 / 就職支援					
12回	インテリアデザインショー制作など7 / 就職支援					
13回	インテリアデザインショー制作など8 / 就職支援					
14回	インテリアデザインショー制作など9 / 就職支援					
15回	インテリアデザインショー制作など10 / 就職支援					
試験等	なし					
[成績評価] 授業への積極的参加度 30%、ショールームディスプレイ作品の評価 20%、インテリアデザインショー担当部分の評価・当日のプレゼンテーション 50%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] スケジュールを良く頭にいれ、担当した制作物を期限までに仕上げていくこと						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワー、メールでも質問や相談に応じます。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅡ (SEMINARⅡ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			262035			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 調理をするときは、エプロン、三角巾を着用し、マニキュアはとること。実習材料費(前期ゼミナールⅡ5,000円、後期ゼミナールⅢ3,000円程度)が必要です。内容によっては時間が延長することがあります。 遅刻・欠席をせずに取り組んでください。						
[授業の具体的到達目標] グループでコミュニケーションをとりながら作業を進めることができる。各種の菓子・パンの基本的な作り方を理解し、工程を楽しみながら丁寧に作り上げることができる。パソコンを使い、画像を挿入した魅力あるレシピブックを作成できる。						
[授業の概要] ゼミのテーマ 「調理を通して食物を学ぶ」。 菓子、パン、軽食を中心に調理実習を行い、食材についての知識や調理技能を身につけます。 個別面談や就職支援の内容も含まれます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ゼミナールの授業、課題についてガイダンス、係りきめ		個人面談			
2回	製菓1(洋菓子)		個人面談			
3回	製菓2(和菓子)		個人面談			
4回	製パン1、製菓3(洋菓子)					
5回	製パン2					
6回	製菓4(冷菓)		個人面談			
7回	製パン3、製菓5					
8回	湘北祭の計画、試作など		個人で取り組むレシピ研究			
9回	湘北祭の計画、試作など		11回(お惣菜バイキング)の計画を立てる			
10回	洋食1(パスタ他)		12~14回の計画を立てる			
11回	お惣菜バイキング					
12回	食に関する企画1					
13回	食に関する企画2					
14回	食に関する企画3					
15回	前期のまとめ					
試験等						
[成績評価] 調理実習、各企画、係りの仕事への取り組み状況(50%)、ゼミ実習レポートの各担当部分(25%)、個人で取り組むレシピ研究(25%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] レポートや課題は期限を守るように取り組む						
	書名		著者		出版社	
テキスト	特になし					
参考文献	新版 ビジュアルクッキング				教育図書株式会社	
[備考] 2名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、オフィスアワー等 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	ゼミナールII SEMINAR II		科目コード 262035	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	実験・実習	
[履修条件、準備等] ・身体・健康・運動・スポーツに興味関心のある学生。 ・主体的、積極的な姿勢で授業に関わることができる学生。						
[授業の具体的到達目標] ①生涯にわたる健康の保持増進のための知識や方法について学ぶ。 ②適度な運動を実施することの重要性について学び、適切な運動習慣を身につける。 ③スポーツ活動を企画・実践することで、他者と協力することや有意義なスポーツ活動の実施方法について学ぶ。						
[授業の概要] ・「生涯スポーツ」を見据えたさまざまなスポーツの企画・実施。 ・スポーツに伴う、身体や健康に関わる学習（効率の良い身体の動かし方など）。 ・救急法講習会の実施、資格取得。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス：役割分担、ゼミで行う内容の企画・運営方法などのレクチャー					
2回	軽運動、レクリエーション①：ストレッチングや縄跳びなど					
3回	軽運動、レクリエーション②：ストレッチングや縄跳びなど					
4回	スポーツ企画①：企画担当者が、スポーツを企画・実施					
5回	スポーツ企画②					
6回	スポーツ企画③					
7回	スポーツ企画④					
8回	スポーツ企画⑤					
9回	ゴルフ①：基本技術（用具の説明、グリップの握り方、打ち方など）					
10回	ゴルフ②：基本技術（アプローチ、パターなど）					
11回	ゴルフ③：打ち放し練習場での練習1					
12回	ゴルフ④：打ち放し練習場での練習2					
13回	湘北祭に向けて①：計画、準備など					
14回	湘北祭に向けて②：計画、準備など					
15回	まとめ ※夏期休暇中、「救急法講習会」を実施（日赤「救急法救急員」資格取得を目指す）。					
試験等	実施しない					
[成績評価] 授業への取り組み方（50%）、受講態度・就職活動状況（50%）で総合的に評価する。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 日頃から自分の身体に向き合い、興味を持つこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 質問は、オフィスアワー（時間は研究室前に掲示）かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	ゼミナールII (Seminar)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			262035			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動に積極的に取り組む姿勢を求める。 ・ゼミ内外を問わず、多くの人と関わることで自分を成長させるという気持ちをもって授業に臨むこと。 						
[授業の具体的到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、社会、労働、ジェンダーなどに関する今日的な問題について、専門的な書籍の精読と批判的検討を通して学び、考える。 ・活動を通して、コミュニケーション能力、協調性、表現力等を総合的に向上させる。 						
[授業の概要]						
1：図書館の書籍や映像資料を読み／視聴し、内容や感想をまとめてゼミ内で報告する。						
2：自分が行った書評・映画評をPOPにして、多くの人に読みたい／見たいと訴えるよう工夫して図書館に掲示する。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					佐藤
2回	ブックレビュー (1.1) 本を探す・読み進める					佐藤
3回	ブックレビュー (1.2) ゼミ内での報告					佐藤
4回	ブックレビュー (1.3) POP制作・展示					佐藤
5回	ブックレビュー (2.1) 本を探す・読み進める					佐藤
6回	ブックレビュー (2.2) ゼミ内での報告					佐藤
7回	ブックレビュー (2.3) POP制作・展示					佐藤
8回	ムービーレビュー (1.1) 映画を探す・視聴					佐藤
9回	ムービーレビュー (1.2) 視聴の続き					佐藤
10回	ムービーレビュー (1.3) ゼミ内での報告					佐藤
11回	ムービーレビュー (1.4) POP制作・展示					佐藤
12回	ブック／ムービーレビュー (1) 資料を探す・読む／視聴					佐藤
13回	ブック／ムービーレビュー (2) ゼミ内での報告					佐藤
14回	ブック／ムービーレビュー (3) POP制作・展示					佐藤
15回	まとめ / 湘北祭に向けて					佐藤
試験等	なし					
[成績評価]						
授業への参加状況（平常点）、課題の完成度を総合的に判断して評価する。 (平常点：50%、課題の完成度：50%)						
[準備学習（予習・復習等）の内容]						
・やむを得ず欠席する場合は、課題を次回までに進めておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅡ SEMINAR Ⅱ		科目コード 262035	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	実験/実習	
[履修条件、準備等] ファッションおよびファッション製作に意欲や関心をもっていること。						
[授業の具体的到達目標] この授業では、主にフォーマルドレスを製作し、それらを用いてファッションショーを企画・開催することを目標としています。この制作過程を通して、学生一人一人の能動的な行動力や、協調性をもったコミュニケーション能力を身に付けます。						
[授業の概要] ショーのメインテーマを設定するためにイメージ画像などを収集しながら決定していきます。その際、イメージを視覚化するために、イメージ画像・色・素材などをカラーージュしたイメージボード制作します。その後、テーマに応じたファッションデザイン画を作成し、型紙の製図、素材を選定し、裁断、縫製を行います。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	ファッションショーのテーマ設定 -イメージ画像や文字資料の収集					
3回	ファッションショーのテーマ設定 -テーマの決定・イメージボード作成					
4回	テーマに沿ったファッションデザイン画制作 -イメージ画像収集					
5回	テーマに沿ったファッションデザイン画制作 -デザイン画作成					
6回	体型測定					
7回	型紙製図					
8回	型紙製図					
9回	型紙製図					
10回	ドレス製作-サンプル作成					
11回	ドレス製作-仮縫い					
12回	ドレス製作-仮縫い					
13回	ドレス製作-上衣縫製					
14回	ドレス製作-上衣縫製					
15回	ドレス製作-下衣縫製					
試験等	試験は実施しません					
[成績評価] 受講態度 50%、課題 50%で総合的に評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 進行状況により、授業時間外での作業を行うことがあります。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] 使用する生地はご自身で購入していただきます。 オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅡ Seminar Ⅱ		科目コード	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤
			262035			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
<p>[履修条件、準備等]</p> <p>プロジェクトや取材の内容によっては、授業日以外に活動する日が若干生じる可能性があることを了解しておいてください。</p> <p>撮影機材等は貸出可能ですが、取材に要する飲食費等は各自負担してください。</p>						
<p>[授業の具体的到達目標]</p> <p>①グループワークの場合は活動を通して、他メンバーと協力しながらプロジェクトを進めることができる。</p> <p>②グループまたは個人の意見を適切な媒体を利用して表現することができる。</p> <p>③プロジェクトを成功させるためのスケジュール管理や実行内容の軌道修正ができる。</p>						
<p>[授業の概要]</p> <p>本厚木周辺の店舗や施設を取材し、他人に伝えたい情報をまとめることを目的とする。社会に貢献できる情報発信収集力を身につけ、また情報発信に有効な媒体を検討する。また自分たちの行った情報発信をとおして気づいたメリットやデメリットを考察する。</p>						
[授業計画]						[担当]
1 回	プロジェクト実行内容検討					林
2 回	前期のプロジェクト実行内容およびスケジュール決定					林
3 回	第1プロジェクトの準備①					林
4 回	第1プロジェクトの準備②					林
5 回	第1プロジェクトの実行①					林
6 回	第1プロジェクトの実行②					林
7 回	湘北祭に向けての話し合い①					林
8 回	湘北祭に向けての話し合い②					林
9 回	第2プロジェクトの準備①					林
10 回	第2プロジェクトの準備②					林
11 回	第2プロジェクトの実行①					林
12 回	第2プロジェクトの実行②					林
13 回	湘北祭の準備①					林
14 回	湘北祭の準備②					林
15 回	前期の振り返り					林
試験等						林
<p>[成績評価]</p> <p>活動への取り組みの姿勢50%、発表内容50%</p>						
<p>[準備学習(予習・復習等)の内容]</p> <p>自発的に実験や調査を進めて行くために、次回の授業時間に何をやるのか予習として考えておく。</p>						
	書	名	著	者	出 版 社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
<p>[備考]</p> <p>オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。</p>						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ Living Science Seminar Ⅲ		科目コード 262040	(ふりがな) 担当者	みず がみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] ゼミナールⅡ履修者。						
[授業の具体的到達目標] イベント(湘北祭参加)を通して他者と関わりながら一連の企画・実践力やデザイン力を磨きます。 また、学内の施設提案やアイデアコンテスト応募など、プロジェクトを通して問題解決の型を身につけます。						
[授業の概要] 前半は湘北祭企画・実践・振り返り、後半はチームあるいは個人でアイデアコンテストに挑戦します。 一年間の成果を編集し、学科全体にて発表します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	湘北祭企画、学外活動・見学会企画					
2 回	湘北祭企画・準備					
3 回	湘北祭準備					
4 回	湘北祭準備					
5 回	湘北祭準備					
6 回	湘北祭実践					
7 回	湘北祭振り返り、最新インテリアの学習					
8 回	インテリアトレンドショー見学					
9 回	見学会レポート作成					
10 回	アイデアまたはデザインのコンテストに挑戦 1					
11 回	アイデアまたはデザインのコンテストに挑戦 2					
12 回	アイデアまたはデザインのコンテストに挑戦 3					
13 回	アイデアまたはデザインのコンテストに挑戦 4					
14 回	アイデアまたはデザインのコンテストに挑戦 5、一年の成果まとめ					
15 回	全体発表会					
試験等	試験は行わない、ゼミナール一年間の活動内容・成果をパワーポイントに美しく仕上げること					
[成績評価] 取組度 60%(各プロジェクトに対する取り組み、チーム貢献度)、学習度 40%(成果品、作品)で総合的に判断して評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] プロジェクト全体を見据えながら担当部分をしっかり予習・復習して授業に臨むこと(スケジュール管理は必須)。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] マルチメディアの利用：図書館のパソコン(Mac book Pro)を使って作品づくりを行う。必要に応じて授業開始前に準備のこと。 オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ SEMINAR Ⅲ		科目コード 262040	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] ファッションショー開催が目標です。 1人で作るのではなく、2人で作るにより、コミュニケーション力、技術力を高めます。						
[授業の概要] ファッションショーの開催を目標にカジュアルドレス、パーティドレス、ウエディングドレスなど興味のある服をオリジナルデザインで作ります。 ファッションショー終了後は各自テーマを決めて、卒業レポートの作成をし、発表をします。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ゼミナールⅠから引き続き、ドレスの製作を行う					太田
2 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
3 回	湘北祭への出店準備					太田
4 回	湘北祭への出店準備					太田
5 回	湘北祭への出店準備					太田
6 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
7 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
8 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
9 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
10 回	ファッションショー用ドレスの製作					太田
11 回	卒業レポートの作成 テーマの決定 調べる・分析する・まとめる					太田
12 回	中間提出・チェック					太田
13 回	調べる・分析する・まとめる・発表資料を作る					太田
14 回	発表会 (ゼミ内)・振り返り					太田
15 回	全体発表会					太田
試験等	試験は行いません。製作物、提出レポートで評価します。					
[成績評価] 授業への取り組み方 40%、 製作物 30%、卒業レポート 30% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったか、グループ内での作業分担などという点も考慮して評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] ドレスの製作等、準備のため空き時間に作業することがあります。 ドレス等に使用する布は自分で買いに行ってもらいます。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp 就職等の相談も受け付けます。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ SEMINAR Ⅲ		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおはしすみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 前期に大橋のゼミナールⅡを履修すること						
[授業の具体的到達目標] ① 協力して物事を完成させる過程の中で、自分自身の特性を見つめ直し、協調性を身につける。 ② 2年間の学びを振り返り、一つの作品としてまとめる。						
[授業の概要] ① 各自の好きな空間についてインテリアのリニューアル設計、または2年間の活動および作品をとりまとめたポートフォリオ作成を行い、作品として完成させてプレゼンテーションを実施する。 ② 湘北祭の参加および記念誌作成を行う。						
[授業計画] ※授業の進行によって内容を変更する場合があります						[担当]
1 回	就職支援 / 湘北祭の準備					
2 回	就職支援 / 湘北祭の準備					
3 回	就職支援 / 湘北祭の準備					
4 回	湘北祭の準備					
5 回	湘北祭の準備					
6 回	湘北祭の準備					
7 回	湘北祭振り返り					
8 回	ポートフォリオ制作					
9 回	ポートフォリオ制作					
10 回	ポートフォリオ制作					
11 回	ポートフォリオ制作 / ゼミ記録作成					
12 回	ポートフォリオ制作 / ゼミ記録作成					
13 回	ポートフォリオ制作 / ゼミ記録作成					
14 回	ポートフォリオ発表会 / 発表会準備					
15 回	ゼミ全体発表会					
試験等	なし					
[成績評価] 授業やイベントへの積極的参加度50%、作品評価50%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] スケジュールに合わせて、作品を完成させてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ (SEMINAR Ⅲ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] 調理をするときは、エプロン、三角巾を着用し、マニキュアはとること。 実習材料費 (3000 円程度) が必要です。15 コマのうち、実習では2コマ連続となる回があります。						
[授業の具体的到達目標] 基本の和食、菓子の作り方を理解し、スピーディに作り上げることができる。 イベントに協力して取り組むことを通し、主体的に、責任感を持って役割を果たせるようになる。						
[授業の概要] ゼミのテーマ「調理を通して食物を学ぶ」。 前期に続いて実習に取り組み、まとめレポートを共同で作成し、製本します。料理は完成度の高いものを目指し、授業の一部として、湘北祭において模擬店の企画、出店をします。個別面談や就職支援の内容も含まれます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	前期のレポートの製本	湘北祭に向けた準備				
2 回	巻きずし・飾り巻きずし	(2 コマ連続 2 回・3 回)				
3 回	巻きずし・飾り巻きずし					
4 回	湘北祭に向けた試作、準備	個別面談				
5 回	湘北祭に向けた試作、準備	個別面談				
6 回	和食、	エクステンジプログラム試作				
7 回	エクステンジプログラム試作	準備 (2 コマ連続 7 回・8 回)				
8 回	エクステンジプログラム試作	準備 など				
9 回	和食	(2 コマ連続 9 回・10 回)				
10 回	和食	(2 コマ連続 9 回・10 回)				
11 回	個人で取り組むレシピ研究	調理				
12 回	クリスマスの軽食バイキング	(2 コマ連続 12 回・13 回)				
13 回	クリスマスの軽食バイキング					
14 回	後期のレポート製本、発表会準備					
15 回	全体発表会					
試験等						
[成績評価] 調理実習、各企画、係りの仕事への取り組み状況 (50%)、ゼミ実習レポートの各担当部分 (25%)、個人で取り組むレシピ研究 (25%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] レポートや課題は期限を守るように取り組む						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	新版 ビジュアルクッキング		教育図書株式会社			
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ SEMINARⅢ		科目コード	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	実験・実習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・身体・健康・運動・スポーツに興味関心のある学生。 ・主体的、積極的な姿勢で授業に関わることができる学生。 						
[授業の具体的到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> ①生涯にわたる健康の保持増進のための知識や方法について学ぶ。 ②適度な運動を実施することの重要性について学び、適切な運動習慣を身につける。 ③スポーツ活動を企画・実践することで、他者と協力することや有意義なスポーツ活動の実施方法について学ぶ。 						
[授業の概要]						
<ul style="list-style-type: none"> ・「生涯スポーツ」を見据えたさまざまなスポーツの企画・実施。 ・湘北祭への参加とその企画。 ・身体や健康に関わる「卒業研究レポート」の作成。 						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス：役割分担の確認、ゼミで行う内容の企画・運営方法などのレクチャー					
2 回	湘北祭に向けて③：計画、準備など					
3 回	湘北祭に向けて④					
4 回	湘北祭に向けて⑤					
5 回	湘北祭に向けて⑥					
6 回	湘北祭の反省					
7 回	スポーツ企画⑥：企画担当者が、スポーツを企画・実施、卒業研究レポート制作①					
8 回	スポーツ企画⑦、卒業研究レポート制作②					
9 回	スポーツ企画⑧、卒業研究レポート制作③					
10 回	スポーツ企画⑨、卒業研究レポート制作④					
11 回	卒業研究レポート制作⑤					
12 回	卒業研究レポート制作⑥					
13 回	卒業研究レポート制作⑦					
14 回	卒業研究レポート発表：自分の調べた内容をプレゼンテーション					
15 回	まとめ					
試験等	実施しない					
[成績評価]						
授業への取り組み方 (50%)、受講態度・就職活動状況 (50%) で総合的に評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容]						
卒業研究レポートの作成は、空き時間や自宅学習の時間を使ってじっくり行うこと。						
	書	名	著	者	出	版 社
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						
質問は、オフィスアワー (時間は研究室前に掲示) かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ (Seminar)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動に積極的に取り組む姿勢を求める。 ・ゼミ内外を問わず、多くの人と関わることで自分を成長させるという気持ちをもって授業に臨むこと。 						
[授業の具体的到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> ・教育、社会、労働、ジェンダーなどに関する今日的な問題について、専門的な書籍の精読と批判的検討を通して学び、考える。 ・活動を通して、コミュニケーション能力、協調性、表現力等を総合的に向上させる。 						
[授業の概要]						
1：図書館の書籍や映像資料を読み／視聴し、内容や感想をまとめてゼミ内で報告する。						
2：自分が行った書評・映画評をPOPにして、多くの人に読みたい／見たいと訴えるよう工夫して図書館に掲示する。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス・後期のスケジュール確認					佐藤
2 回	湘北祭に向けた準備					佐藤
3 回	湘北祭に向けた準備					佐藤
4 回	湘北祭に向けた準備					佐藤
5 回	湘北祭に向けた準備					佐藤
6 回	湘北祭の振り返り					佐藤
7 回	} テーマを話し合い、書評・映画評を行う					佐藤
8 回						佐藤
9 回						佐藤
10 回						佐藤
11 回						佐藤
12 回						佐藤
13 回						佐藤
14 回	1年間のまとめ					佐藤
15 回	ゼミナール発表会					佐藤
試験等	なし					
[成績評価]						
授業への参加状況、課題への取り組みを総合的に判断して評価する。 (授業への参加状況：50%、課題への取り組み：50%)						
[準備学習（予習・復習等）の内容]						
・やむを得ず欠席する場合は、課題を次回までに進めておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ SEMINAR Ⅲ		科目コード	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	実験/実習		
[履修条件、準備等] ファッションおよびファッション製作に意欲や関心をもっていること。						
[授業の具体的到達目標] この授業では、主にフォーマルドレスを製作し、それらを用いてファッションショーを企画・開催することを目指しています。この制作過程を通して、学生一人一人の能動的な行動力や、協調性をもったコミュニケーション能力を身に付けます。						
[授業の概要] 前半では、ゼミナールⅡに引き続きファッションショー開催に向けてフォーマルドレスの製作を行います。後半では、これまでに収集、調査してきた情報を整理して、関心のあるテーマを選定し、卒業研究レポートの作成を行います。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンスとドレス製作					
2 回	ドレス製作					
3 回	湘北祭の準備					
4 回	湘北祭の準備					
5 回	湘北祭の準備					
6 回	ドレス製作					
7 回	ドレス製作					
8 回	ドレス製作					
9 回	ドレス製作					
10 回	卒業研究レポート – レポート作成法の説明					
11 回	卒業研究レポート – 資料収集・テーマ選定					
12 回	卒業研究レポート – レポート作成					
13 回	卒業研究レポート – レポート作成					
14 回	発表会準備 – 模擬発表会					
15 回	学科合同卒業発表会					
試験等	試験は実施しません					
[成績評価] 受講態度 50%、課題 50%で総合的に評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 進行状況により、授業時間外での作業を行うことがあります。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] 使用する生地はご自身で購入していただきます。 オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。						

科目名 (英語名)	ゼミナールⅢ SeminarⅢ		科目コード	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤
			262040			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	演習		
<p>[履修条件、準備等]</p> <p>プロジェクトおよび取材の内容によっては、授業日以外に活動する日が若干生じる可能性があることを了解しておいてください。</p> <p>撮影機材等は貸出可能ですが、取材に要する飲食費等は各自負担してください。</p>						
<p>[授業の具体的到達目標]</p> <p>①グループワークの場合は活動を通して、他メンバーと協力しながらプロジェクトを進めることができる。</p> <p>②グループまたは個人の意見を適切な媒体を利用して表現することができる。</p> <p>③プロジェクトを成功させるためのスケジュール管理や実行内容の軌道修正ができる。</p>						
<p>[授業の概要]</p> <p>本厚木周辺の店舗や施設を取材し、他人に伝えたい情報をまとめることを目的とする。社会に貢献できる情報発信収集力を身につけ、また情報発信に有効な媒体を検討する。また自分たちの行った情報発信をとおして気づいたメリットやデメリットを考察する。</p>						
[授業計画]						[担当]
1 回	後期のプロジェクト実行内容およびスケジュール決定					林
2 回	湘北祭の準備作業①					林
3 回	湘北祭の準備作業②					林
4 回	湘北祭の準備作業③					林
5 回	湘北祭の準備作業④					林
6 回	湘北祭の振り返り					林
7 回	卒業記念制作プロジェクトの検討①					林
8 回	卒業記念制作プロジェクトの検討②					林
9 回	卒業記念制作プロジェクトの準備①					林
10 回	卒業記念制作プロジェクトの準備②					林
11 回	卒業記念制作プロジェクトの実行①					林
12 回	卒業記念制作プロジェクトの実行②					林
13 回	卒業記念制作プロジェクトの実行③					林
14 回	発表会準備					林
15 回	全体発表会					林
試験等						林
<p>[成績評価]</p> <p>活動への取り組みの姿勢50%、発表内容50%</p>						
<p>[準備学習(予習・復習等)の内容]</p> <p>自発的に実験や調査を進めて行くために、次回の授業時間に何をするのか予習として考えておく。</p>						
	書	名	著	者	出 版 社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
<p>[備考]</p> <p>オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。</p>						

科目名 (英語名)	女性のライフスタイル論 Lecture on Women's Lifestyle		科目コード 232045	(ふりがな) 担当者	みずがみ ゆたか 水上 裕	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 授業中に教科書に書き込む回があります。事前に指示があった場合には、教科書を必ず持参してください。						
[授業の具体的到達目標] ①自立して輝く女性となるために、ライフスタイルに関わるさまざまなことに対して考えることができる。 ②卒業後の自分自身の生き方を具体的にイメージできる。						
[授業の概要] 女性の人生は、さまざまな分岐点での選択や決断により大きく変わるものである。そのため、この授業では、自身のライフスタイルについて考えるための機会を提供する。数回の講義を経た後、その講義内容を取りまとめてディスカッションする時間を設けて、得られた知見を深めることとする。すでに社会人となっている卒業生の生きざまに触れる機会なども設けて、多様な女性の生き方について考えることができる授業を展開する。						
[授業計画]						[担当]
1回	ライフスタイルやライフイベントについて考える			9/13	水上・築瀬	
2回	生活に関わる経費について学ぶ～生活にかかるお金と費目、ライフイベントとお金			9/20	築瀬	
3回	資金の活用方法について学ぶ～賢くお金を使うには			9/27	築瀬	
4回	ライフスタイルを磨き上げていくために必要なこと			10/4	小泉・佐藤	
5回	衣生活からライフスタイルを考える			10/11	太田・小出	
6回	食生活からライフスタイルを考える			10/18	林・吉川	
7回	住生活からライフスタイルを考える			10/25	大橋・水上	
8回	学んだことがらについてのディスカッション①			11/1	全員	
9回	労働と職業～給与明細の見方を知り、社会保障制度について理解する			11/15	築瀬	
10回	卒業後のライフスタイルをイメージする			11/22	専任全員	
11回	ライフプランニングの方法を学ぶ (外部講師)			11/29	築瀬	
12回	A:ライフプランニングの実践体験 (外部講師) /B:金融や保険について学ぶ			12/6	全員	
13回	B:ライフプランニングの実践体験 (外部講師) /A:金融や保険について学ぶ			12/20	全員	
14回	ライフプランニングの実践内容を振り返る (外部講師)			1/17	全員	
15回	卒業後のライフスタイルについて考える			1/24	全員	
試験等	小論文の課題を提示する					
[成績評価] 毎回の授業時の提出物20%、授業態度30%、継続課題20%、小論文20%の総合評価とする。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 数回の授業で学んだことがらについてディスカッションをする機会を設ける。そのために、授業で学んだことがらの概要を事前にまとめておく必要がある。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	生活プロデュース入門	「生活プロデュース入門」編集委員会編	青山社			
	明るい暮らしの家計簿2016		ときわ総合サービス			
参考文献	学生生活マネー&キャリアお役立ちハンドブック		NPO 法人日本FP 協会			
	若手社会人のマネー&ライフプランお役立ちハンドブック		NPO 法人日本FP 協会			
[備考] 築瀬 千詠 生活プロデュース学科全専任教員 卒業生を招く回やソニー生命のライフプランナーの方々にファシリテートいただく回があります。						

科目名 (英語名)	オフィスワーク総論 Understanding of Basic Business world		科目コード 222505	(ふりがな) 担当者	さとう ちひろ 佐藤 知条	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 毎週プリントを配布します。その保存にA4サイズのファイルを各自必ず用意すること。 オフィスワーク演習との並行履修で、ビジネス社会に向け、自己をよりよく備えることができます。						
[授業の具体的到達目標] 授業終了時には、学生は：ビジネス活動とは何か、その目的や設立過程。地球環境や地域とのつながり。ビジネス活動とのかかわり方。仕事をする人間としての権利と義務、などについて知識を獲得していることを目標とします。						
[授業の概要] 講義が主となります。授業の進行に応じて、新聞や雑誌の記事などから今の社会の情報を取り込んで、ビジネスと自分のかかわりを考えていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ビジネス活動への基本姿勢ーオフィスで役に立つメンバーになろう					
2回	オフィスワークとはどのような業務？					
3回	ビジネスの現場 ①ビジネス活動とは					
4回	ビジネスの現場 ②業種と職種					
5回	ビジネスの現場 ③会社の仕組みと会社の組織					
6回	ビジネスの現場 ④会社の責任、CSとES、ホスピタリティ					
7回	働き方の変化：正規社員になって毎日会社に通勤しますか？					
8回	まさかのときに自分を守る①ー働くことと法律					
9回	まさかのときに自分を守る②ー給与の仕組み、給与分の仕事とは？					
10回	まさかのときに自分を守る③ー保険と税金					
11回	働きやすい職場とは？オフィス環境の整備					
12回	組織の中での行動の仕方ーあなたに最適な仕事とは？					
13回	好感をもたれ、重用されるビジネスメンバーになるには？					
14回	ビジネス活動に必要な情報：情報を仕事に活用するには					
15回	まとめ、組織の中での行動の仕方、仕事の中で成長する自己ー就職に向けて自己を見つける					
試験等	期末試験またはレポートを実施します。					
[成績評価] 授業への参加度と提出物50%、期末試験または期末レポート50%。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] プリントを復習するとともに、学んだことを日常生活のなかで活用するようにしてください。						
テキスト	特になし					
参考文献	盛田昭夫語録				ニューマガジズ・ビジネスブック	
	会社法		尾崎哲夫		自由国民社	
[備考] 上記以外の担当者：天沼真佐子（佐藤：2クラス、天沼：1クラス） 質問がある場合は、授業終了後等に教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	メディカルクラーク I Medical Clerk I		科目コード 242470	(ふりがな) 担当者	(おおくぼひとみ) 大久保 仁美	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] *当科目と共に、「メディカルクラークⅡ及びⅢ」も必ず履修し、他の資格必須科目も履修すること。 *各回、新しい内容を学習するので休まず全て出席すること。 *必ず、予習・復習・宿題を行うこと。各テキストをよく読み、インデックスを貼り索引し易くすること。						
[授業の具体的到達目標] ・8月末に実施される「医療事務技能審査試験」に(注1)合格すること。 そのために、医療機関の窓口担当者として必要な知識、マナー、技能を習得します。 (注1)：(財)一般日本医療教育財団が認定する国内最大規模の全国統一試験、医療技能者としての能力を評価。						
[授業の概要] 最初に医療保険制度を理解し、続いて窓口での接遇について学びます。その後、医療事務の仕事として大切な診療報酬(注2)の点数算定方法を、項目(投薬、注射等)ごとに学びます。当科目と「メディカルクラークⅡ」は同日に続けて学習します。(注2)：保険診療の際に医療行為等の対価として計算される報酬のこと。点数で請求する。						
[授業計画]						[担当]
1回	医療保険制度 1					
2回	医療保険制度 3					
3回	患者接遇 1					
4回	患者接遇 3					
5回	投薬 1					
6回	注射 1					
7回	画像診断 1					
8回	初診料・再診料 1					
9回	医学管理等					
10回	処置 1					
11回	手術・輸血					
12回	検査 1					
13回	検査 3					
14回	リハビリテーション					
15回	点数算定と明細書記載まとめ					
試験等	学期末試験実施					
[成績評価] 学期末試験 50% 宿題・小テスト・レポート 30% 受講態度 20% の比率で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] ・予習は、次回学習するところの内容をイメージできるように、テキストを読んでください。 ・復習は学習したところのテキストを読み返し、例題等問題を必ず解きなおしてください。技能を定着させます。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	医科テキスト1・2・3・4	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
	スタディブック1・2	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
	ハンドブック	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
参考文献	基礎問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
	技能審査問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
	演習問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
[備考] ・質問がある場合には、講義後に直接講師に質問してください。 ・欠席をした場合は、自宅学習で補う必要があります。欠席した回のテキストを読み、例題問題を全て解いてください。						

科目名 (英語名)	メディカルクラークⅡ Medical Clerk Ⅱ		科目コード 242475	(ふりがな) 担当者	(おおくぼひとみ) 大久保 仁美	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法 講義/演習		
<p>[履修条件、準備等]</p> <p>*当科目と共に、「メディカルクラークⅠ及びⅢ」も必ず履修し、他の資格必須科目も履修すること。 *各回、新しい内容を学習するので休まず全て出席すること。 *必ず、予習・復習・宿題を行うこと。各テキストをよく読み、インデックスを貼り索引し易くすること。</p>						
<p>[授業の具体的到達目標]</p> <p>・8月末に実施される「医療事務技能審査試験」に(注1)合格すること。 ① 医療機関の窓口担当者として必要な知識、マナー、技能をしっかりと身に着けます。 ② 診療行為ごとに、カルテ内容を理解し、正確な算定とレセプト点検が行える技能を習得します。</p>						
<p>[授業の概要]</p> <p>当科目は「メディカルクラークⅠ」に続けて同日に学習します。内容はⅠとほぼ同じです。患者接遇については、ロールプレイングを取り入れながら身に付けます。また、診療報酬点数算定を基に、診療報酬明細書の記入方法、医事コンピューターシステム、明細書の点検について学習し、正しい明細書を作成します。</p>						
[授業計画]						[担当]
1回	医療保険制度2					
2回	医療保険制度4					
3回	患者接遇2					
4回	患者接遇4					
5回	投薬2					
6回	注射2					
7回	画像診断2					
8回	初診料・再診料2					
9回	在宅医療					
10回	処置2					
11回	麻酔					
12回	検査2					
13回	検査4					
14回	入院等					
15回	明細書作成 医事システム					
試験等	学期末試験実施					
<p>[成績評価]</p> <p>学期末試験 50% 宿題・小テスト・レポート 30% 受講態度 20% の比率で総合的に評価します。</p>						
<p>[準備学習(予習・復習等)の内容]</p> <p>・宿題を行うことで、理解度を確認します。誤り箇所はもう一度テキストに戻って復習し技能を定着させます。 ・宿題は成績評価の対象です。必ず提出してください。</p>						
	書名	著者	出版社			
テキスト	医科テキスト1・2・3・4	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
	スタディブック1・2	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
	ハンドブック	株式会社ニチイ学館	(株) 東京丸の内出版			
参考文献	基礎問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
	技能審査問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
	演習問題集	株式会社ニチイ学館	株式会社 ニチイ学館			
<p>[備考]</p> <p>・質問がある場合には、講義後に直接講師に質問してください。 ・欠席をした場合は、自宅学習で補う必要があります。解らないところは何度でも質問してください。</p>						

科目名 (英語名)	サービス介助演習 B CARE-FIT B		科目コード	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤
			222445			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等]						
① 介助に興味を持ち、「サービス介助士」の資格取得を目指す学生。						
② 受講費用として¥21,060 が必要となる (通常¥41,040 の受講料を学校が一部補助)。						
③ 動きやすい服装 (スカート不可)・体育館シューズ、証明写真 (縦4cm×横3cm、受講票用) を準備すること。						
④ 授業の内容は毎回違い、資格取得のために全てが必要となる。遅刻や早退、欠席は、原則として認めない。						
⑤ 資格を取得するためには、①全ての授業を受講する、②提出課題で60点以上取得する、③実技・筆記試験 (70点以上取得) に合格する、以上の3つの条件が必要となる。						
⑥ 受講希望者が多い場合は、抽選をする (最大20名程度)。						
[授業の具体的到達目標]						
① サービス介助士に合格するための知識・技術を習得する。						
② 相手の立場を考え行動できる「ホスピタリティ・マインド」を向上させる。						
③ 相手にとって安全で安心できる「正しい介助技術」を身につける。						
[授業の概要]						
授業計画で扱う内容の通り、高齢者疑似体験、車いす基本操作、視覚障害者に対する手引きなどのサービス介助士資格の取得のために必要な知識や技術について学んでいく。また、授業内の空き時間や自宅学習を利用して資格取得に必要な課題を提出する。						
[授業計画]						[担当]
1 回	授業の目的、進め方、サービス介助士の基本理念、介助と介護の違い、サービス介助士に必要な資質					
2 回	高齢者のイメージ、疑似体験の注意事項の説明、高齢者疑似体験、感想、高齢者の身体的特徴					
3 回	高齢社会の理解、高齢化社会と高齢社会、高齢化の要因、ジェロントロジーとは					
4 回	介助の心構え、ホスピタリティ・マインド、接遇、ノーマライゼーションの必要性、障がいの種類					
5 回	車いす基本操作① 各部の名称、広げ方・たたみ方、3大注意点 (声かけ・足台・ブレーキ)					
6 回	車いす基本操作② 段差、スロープ、狭い道、自走体験、斜め道、持ち上げ					
7 回	杖・片まひ歩行の方への介助、着脱訓練、車椅子への移乗方法					
8 回	アイマスク体験、手引きの基本姿勢、手引きの方法①					
9 回	アイマスク体験、手引きの基本姿勢、手引きの方法②					
10 回	クロックポジション、金銭の受け渡し①					
11 回	クロックポジション、金銭の受け渡し②					
12 回	視覚障がいの概要、点字ブロック、白杖の役割					
13 回	聴覚障がいの概要、コミュニケーションの方法、具体的な介助方法、身体障害者補助犬法					
14 回	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、関連法規 (交通バリアフリー法、ハートビル法など)					
15 回	実技チェック、検定試験についての概要説明、検定試験 (筆記) 対策、まとめ					
試験等	学年末試験を実施 (検定試験)					
[成績評価]						
課題評価点 (提出物の評価) : 40%、受講態度 : 40%、実技・検定試験 : 20%						
※ サービス介助士検定の合格・不合格とは別に、成績評価をする。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容]						
授業の空き時間や自宅学習を利用して資格取得に必要な課題を行い、提出する (提出締切は ♂ 回目の授業)。						
また、毎週配付するワークシートを復習に利用すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	サービス介助士	サービス介助士				
	検定取得講座テキスト	検定取得講座テキスト編集委員会	日本ケアフィット共育機構			
参考文献						
[備考]						
・ この授業は、日本ケアフィット共育機構のインストラクターと小泉の2名で実施する。						
・ 検定試験に不合格の場合は、修了証が発行され、実費負担で一般受験会場での再試験が受けられる (¥3,240)。						
・ 質問は、オフィスアワー (時間は研究室前に掲示) かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	マテリアル論 MATERIAL FOR CLOTHING		科目コード 222100	(ふりがな) 担当者	(たに しょうこ) 谷 祥子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 1年次開講の「テキスタイル論」を履修済みであることが望ましいです						
[授業の具体的到達目標] 被服材料の基本となる繊維の種類と性質について理解することができます 快適な衣生活を営むために、また衣料管理士として社会で活躍するために必要な知識を身につけることができます						
[授業の概要] 快適で豊かな衣生活を営むためには、被服材料の種類や性質を理解し、着用の目的に応じて衣服を選択し、取り扱い方法を考える必要があります。本講義では、被服材料の最も基本となる繊維について、種類、構造、性質、用途等を、身の周りの衣料品を例としながら学習します						
[授業計画]						[担当]
1回	繊維とは何か					
2回	繊維の種類					
3回	天然繊維① 植物繊維 綿					
4回	天然繊維② 植物繊維 麻					
5回	天然繊維③ 動物繊維 絹					
6回	天然繊維④ 動物繊維 毛					
7回	再生繊維 レーヨン・キュプラ					
8回	半合成繊維 アセテート					
9回	合成繊維① ポリエステル					
10回	合成繊維② ナイロン・アクリル・その他					
11回	繊維の製造					
12回	新しい繊維材料① 機能性繊維					
13回	新しい繊維材料② 快適性繊維					
14回	繊維のリサイクル					
15回	まとめ					
試験等	前期末試験を実施					
[成績評価] 学期末試験 50%、レポート 50%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習：衣料品の品質表示を見る習慣をつけてください。 復習：授業を振り返り、理解できなかった箇所は次週に質問してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	被服材料学 改訂版	林 雅子他	実教出版株式会社			
参考文献	アパレル素材論	文化服装学院	文化出版局			
	はじめて学ぶ繊維	信州大学繊維学部編	日刊工業新聞			
[備考] メールで質問を受け付けます メールアドレス： s-tani@shohoku.ac.jp *テキストは2015年度の「テキスタイル論」と同様です						

%科目名 (英語名)	ファッションと生活 FASHION AND LIFE		科目コード	(ふりがな) 担当者	(たに しょうこ) 谷 祥子	専任・非常勤
			222105			非常勤
2単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] ファッション、ファッション業界に興味、関心があることです						
[授業の具体的到達目標] 現代のファッション業界について理解し、豊かなファッションライフを創造する能力を身につけます アパレル業界やブライダル業界などのファッション産業で働く際に必要な基礎的知識を得ることができます						
[授業の概要] ファッションビジネスのシステムを理解し、現代のファッションビジネスの潮流を学びます。						
[授業計画]						[担当]
1回	人はなぜ衣服を着るのか					
2回	ファッションとは					
3回	ファッションビジネスとは					
4回	ファッションビジネスの仕組み					
5回	ファッションのグローバル化					
6回	ラグジュアリーブランドとファストファッション					
7回	メイドインジャパンのファッションビジネス					
8回	インターネット、通信販売					
9回	ファッションビジネスの仕事① 商品企画・デザイン・パターンナー					
10回	ファッションビジネスの仕事② バイヤー・広報・プロモーション					
11回	ファッションビジネスの仕事③ 営業・マーケティング・販売・消費者対応					
12回	アパレル企業研究① 企業の選定、企業の概要、業界内での位置づけ					
13回	アパレル企業研究② 商品、店舗についての分析					
14回	アパレル企業研究③ レポートの作成					
15回	発表					
試験等	レポートと発表					
[成績評価] レポート50%、発表50%で総合的に評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 復習：適宜レポートの課題を出します。実際の店舗に行ったり、新聞、雑誌、ネットなどで情報を集めたりして課題に取り組む必要があります。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	ファッションビジネスの世界	永松浩介他	日本衣料管理協会			
参考文献						
[備考] メールで質問を受け付けます。メールアドレス： s-tani@shohoku.ac.jp パワーポイントを用いた演習形式の授業です						

科目名 (英語名)	テキスタイルテスト (TEXTILES TEST)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(たに しょうこ) 谷 祥子	専任・非常勤
			222110			非常勤
1 単位	開講期	前期	授業方法	実験・実習		
[履修条件、準備等] ファッションコースの必修科目を履修していること 白衣 (またはエプロン) などを用意してください						
[授業の具体的到達目標] 糸や布の物性試験を通じて、衣服材料の性質を体感的に理解することができます 糸や布の物性試験の技術と方法を身につけることができます 衣料管理士に求められる専門的な知識と技術を身につけることができます						
[授業の概要] 実験機器による糸と布の物性試験を行います 実験は3～4名のグループごとに行います。						
[授業計画]						[担当]
1 回	実験上の諸注意と安全に対する心構え					
2 回	糸の太さの測定					
3 回	糸の合糸数、より方向、より数の測定					
4 回	織物と編物の組織と表示					
5 回	布の構造に関する試験① (厚さ、質量、織糸密度)					
6 回	布の構造に関する試験② (見かけ比重、含気率、カバーファクター)					
7 回	引っ張り強さ・伸び試験					
8 回	摩耗強さ試験					
9 回	防しわ試験					
10 回	剛軟度試験					
11 回	ドレープ性試験					
12 回	通気性試験					
13 回	保温性試験					
14 回	水分率測定					
15 回	吸水性試験					
試験等	実験項目ごとにレポート提出					
[成績評価] 実験項目ごとのレポートで100%評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習: 実験前にプリントを読んでおいてください。 復習: 実験内容を振り返り、データを整理してレポートにまとめて、次週に提出してください。						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	プリント					
参考文献	被服材料実験書	石川欣造	同文書院			
	アパレル素材論	文化服装学院	文化出版局			
	概説被服材料学	中島利誠	光生館			
[備考] メールで質問を受け付けます。メールアドレス: s-tani@shohoku.ac.jp 実験はローテーションで行いますので、順番は必ずしも上記の通りではありません。初回の授業時に示します。						

科目名 (英語名)	アパレルメイキング実習 CLOTHING DESIGN AND CONSTRUCTION		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤
			222115			専任
2 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 縫う技術は問いませんが、1 回休むと追いつくのが難しくなるのできちんと出席してください。 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] 衣服が出来る工程を、計測、製図、製作を通して学びます。						
[授業の概要] 被服構成のための人体計測、平面製図、ドレーピング (立体裁断) などの実習を行い、人体、素材特性を考慮したパターンメイキングについて学びます。 さらにスカート製作を通して縫製の基礎、縫製機器 (ミシン・ロックミシン) の取り扱いを学びます。 また、縫製工場を模擬体験することにより、効率的な生産の仕組みと流れを理解します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス、ミシンの使い方、まつり縫いの練習					太田
2 回	身体計測 I、ポーチの製作 (ミシン・ロックミシンの練習)					太田
3 回	身体計測 II、個人の計測値と J I S サイズの比較					太田
4 回	ドレーピング (胴部スローパの作成)、工業用パターン・縫製仕様書・工程分析表の作成					太田
5 回	スカートの製図					太田
6 回	縫製工場を模擬体験 (各工程に分かれて、縫製仕様書に沿った作業を体験してみよう)					太田
7 回	スカートの製作 ① スカートのデザイン展開、型紙づくり					太田
8 回	② 地直し、裁断、印付け、仮縫い					太田
9 回	③ 仮縫い、試着、補正、見返し作り、縫製 (ダーツ・後ろ中心)					太田
10 回	④ 縫製 (ダーツ・後ろ中心・脇のミシン・ロックミシン、ファスナーつけ)					太田
11 回	(ファスナーつけ、見返しの始末・すその始末)					太田
12 回	⑤ 仕上げ (まつり・アイロンかけ) 作品提出、リングピローの製作					太田
13 回	リボンのバッグの製作 I					太田
14 回	リボンのバッグの製作 II、ジーンズの生産国、縫製の比較					太田
15 回	スカートの試着と撮影、振り返りの模造紙の作成、簡単なテスト					太田
試験等	試験期間には試験は行いません。製作物、最後の授業で行う簡単なテストで評価します。					
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、製作物 50%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 持ち帰っての製作はありません。遅刻・欠席が多いと進捗が遅れますので注意!						
	書	名	著	者	出版 社	
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp 布を買いに行ってもらうこともあります。						

科目名 (英語名)	インテリアファブリックス INTERIOR FABRICS		科目コード 222335	(ふりがな) 担当者	つちや ちずこ 土屋 千寿子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
<p>[履修条件、準備等] インテリアに関心があり 真剣に学ぶ意欲のある学生が望ましい (クラス人数 30 限 超えた場合は抽選) ○ ファッションコース 「テキスタイルアドバイザー」を目指す学生は必修 “ファイル”を 受講時に持参の事 クリアタイプ 40ポケット A4サイズ ○ 毎回授業で配布する資料等 各自がテキスト用に分かり易くまとめて ファイリング管理する</p>						
<p>授業の具体的到達目標 日々の生活空間としてのインテリアは「心地良さ」や「豊かさ」、そして何より「その人らしさ」が求められています。 【インテリア=暮らし方そのもの】… その意味を良く理解し 実際の住まいづくりに役立てましょう。</p>						
<p>[授業の概要] インテリアスタイルを大きく左右するファブリックスは、何を基準に選んでまとめたら良いのか、 機能性・デザイン性・目的用途による組み合わせ～装飾的なアレンジの仕方など、応用自在の 【インテリアファブリックス =インテリアに使われる布状の総称】を通して、コーディネートの基本知識を習得する。</p>						
[授業計画]						[担当]
1回	“暮らしの中のファブリックス”					
2回	ファブリックスの種類と特長	繊維・織方・染・加工				
3回	品質表示と法規制	用語・マーク・ラベル				
4回	《ウィンドウトリートメント》	窓の役割とカーテンの機能				
5回		生地の種類/スタイル・バリエーション				
6回		カーテンレールの部材/採寸～要尺～取り付け方				
7回	《ソフトファニッシング》 用途	寝具カバー類/椅子張地/テーブルクロス/タピストリー				
8回		床・カーペット/壁・クロス				
9回		品質機能・デザイン・価格 … HP 検索 ○ パソコン				
10回	《インテリアスタイル》	色・柄・テクスチャー … イメージスケール活用法				
11回		イメージ確認 … カラージュ ボード作成		○ 課題実習		
12回		” ”		作品発表 & 講評		
13回		コーディネート… プロセスの手法				
14回	《インテリアの演出》 【照明】 基礎 …	インテリアのカラーとライティング				
15回		“暮らしを楽しむ” 事例の説明				
試験等	卒業試験実施					
<p>[成績評価] 受講態度 30% 授業内容ノート 40% 課題 (提出期限&仕上レベル) 30% …総合評価とする</p>						
<p>[準備学習 (予習・復習等) の内容] 復習 : 配布資料を再読し、理解しておく事</p>						
	書 名	著 者		出 版 社		
テキスト	配布プリント 使用	当講義用のオリジナル作成				
	メーカーのカタログ資料等			ファブリック関連メーカー		
参考文献	配布プリント 使用	当講義用のオリジナル作成				
<p>[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。</p>						

科目名 (英語名)	リビングケア LIVING CARE		科目コード 222130	(ふりがな) 担当者	(たに しょうこ) 谷 祥子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 生活の中でどのように衣服の管理や身の回りの清潔さを保っているかに関心を持ってください 繊維製品の品質表示、取り扱い絵表示を注意して見ておいてください						
[授業の具体的到達目標] 汚れ、洗濯、洗浄の仕組みを理解することができます。 衣料品の組成や表示に合わせて、適切な取り扱い方法を選択することができます。 衣料管理士に求められる、衣服の取り扱いについての知識を身につけることができます						
[授業の概要] 快適で豊かな生活を過ごすために、身の回りの品々を清潔に保ち、管理する方法を学びます。具体的には主に衣料品を対象に、汚れの種類、洗濯、洗浄の原理について学び、家庭洗濯、商業洗濯、取り扱い絵表示などについて実際の生活に即しながら考えていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	授業の概説					
2回	汚れ					
3回	洗剤					
4回	汚れ除去のメカニズム					
5回	洗濯機					
6回	家庭洗濯					
7回	商業洗濯					
8回	漂白と増白					
9回	糊つけと仕上げ					
10回	しみ抜き					
11回	衣服の保管					
12回	取り扱いに関する表示					
13回	衣服の廃棄とリサイクル					
14回	生活に用いられる様々な洗剤① 除菌スプレー、台所用洗剤、掃除用洗剤					
15回	生活に用いられる様々な洗剤② シャンプー、ボディケア、歯磨き粉					
試験等	期末試験					
[成績評価] 学年末試験 50%、レポート 50%の比率で総合的に評価します						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習：生活の中でどのように衣服を取り扱っているのかなど、意識的に考えるようにしてください。 復習：適宜レポート課題を出しますが、実際の生活に即して、学習内容を理解するようにしてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	被服整理学	日本衣料管理協会刊行委員会	日本衣料管理協会			
参考文献	洗濯と洗剤の科学	阿部幸子	放送大学教育振興会			
	衣服管理の科学	片山倫子他	建帛社			
[備考] メールで質問を受け付けます。メールアドレス： s-tani@shohoku.ac.jp *テキストは1年生前期開講科目「染色整理学実験」で使用したものと同じです。						

科目名 (英語名)	ファッションコーディネート 演習 FASHION COORDINATE		科目コード 222135	(ふりがな) 担当者	こいで まりこ 小出 真理子	専任・非常勤 専任
	1 単位	開講期	後期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 〈衣士〉必修となります。 毎回の授業の積み重ねで進んでいきます。遅刻・欠席をせずに受講してください。						
[授業の具体的到達目標] アパレル業界で用いることの出来るPC活用術を身につけます。						
[授業の概要] この授業では、アパレル業界では必須となっているアパレルCADソフトを用いて、パターンメイキングの基本操作、パターン作成やグレーディングなどを習得します。また、着装シミュレーションソフトにより、生地組成・色・柄などを変化させた場合のシルエットの変化などを確認していきます。同時に、シミュレーションさせたものを組み合わせて、着装コーディネートについても学びます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス					
2 回	Photoshop の基本操作					
3 回	Photoshop 用いたファッションイメージマップ①イメージの説明と選択					
4 回	Photoshop 用いたファッションイメージマップ②イメージの選択と修正					
5 回	Photoshop 用いたファッションイメージマップ③マップ仕上げ					
6 回	Photoshop 用いた自身のファッションコーディネート①ボディの撮影					
7 回	Photoshop 用いた自身のファッションコーディネート②テーマ・コンセプト設定					
8 回	Photoshop 用いた自身のファッションコーディネート③ファッション画像収集					
9 回	Photoshop 用いた自身のファッションコーディネート④ファッション画像合成・仕上げ					
10 回	3Dシミュレーションソフト (i-Desingner) -ワンピースの装着					
11 回	3Dシミュレーションソフト (i-Desingner) -ジャケットまたはブラウスの装着					
12 回	3Dシミュレーションソフト (i-Desingner, ID-Fit) -上下の装着					
13 回	アパレルCAD製作①Tシャツ製図身頃・袖					
14 回	アパレルCAD製作②Tシャツ製図縫い代付けとグレーディング					
15 回	アパレルCAD製作③Tシャツデザイン変更					
試験等	課題提出					
[成績評価] 受講態度 50%、課題 50%の比率で総合的に評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 自身の全身写真を撮影するため、指示する着装アイテムを用意していただきます。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリントを配布					
参考文献	ファッションコーディネートの世界	林泉	文化出版局			
[備考] パソコンを用いた演習の授業です。 オフィスアワーを設けています。						

科目名 (英語名)	アパレル企画演習 APPAREL MERCHANDISING		科目コード 222140	(ふりがな) 担当者	(あおのゆういち) 青野 祐一	専任・非常勤 非常勤
	1単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 何かを創り出したい、そして自分自身の持つ発想を引き出したい、そんな気持ちを持つ学生を対象とします。その為に数々の演習を通じてクリエイションのポイントをつかみます。初回準備物は筆記用具です。						
[授業の具体的到達目標] 現在のファッション業界、市場動向を分析しながらファッション企画力・提案力のベースを習得します。						
[授業の概要] 業界の最新事例を交えながら、後半にオリジナルブランドの企画制作を行います。最終回はプレゼンテーションによる審査会を実施します。これが演習課題になります						
[授業計画]						[担当]
1回	ファッションマーケティング	誰にでもできる企画の発想				
2回	ファッションマーケティング	企画の成功事例				
3回	トレンドアイテムチェック	ヒット商品の謎を探る				
4回	〃	ビジュアル制作	提出	共有会		
5回	ディケードスタイル	社会現象とサブカルチャー				
6回	〃	ファッショントピックス				
7回	〃	スタイリング表現				
8回	〃	作品制作	提出	検討会		
9回	ブランドプロデュース	企画の背景は身近なことから				
10回	〃	コンセプトメイク		作品制作		
11回	〃	ターゲット設定		作品制作		
12回	〃	ライフスタイルマップ		作品制作		
13回	〃	スタイリング		作品制作		
14回	〃	作品総仕上げ、プレゼンテーション準備				
15回	プレゼンテーション審査会	評価、表彰				
試験等	試験は実施しません。15回目のプレゼンテーションがその代わりになります。					
[成績評価] 課題評価50%・受講姿勢25%・プレゼンテーション25%の比率で総合評価します。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 準備物、予習等はその都度授業内で指示します。また復習(振り返り)も授業内で指示をします。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	各授業時の配布資料					
参考文献	ストリートファッション 1945 - 1995		PARCO出版			
	スタイリングブック		グラフィック社			
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	ファッションプロデュース FASHION PRODUCE		科目コード	(ふりがな) 担当者	おおた なお 太田 奈緒	専任・非常勤
			222145			専任
1 単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] ファッションコース必修 遅刻・欠席をしないように授業に出てください。						
[授業の具体的到達目標] ファッションショー開催が目標です。						
[授業の概要] ファッションショーの開催を目標に、ファッションショーを自分たちで構成・演出していきます。メイク、ウォーキング講習なども行います。ファッションショーが11月開催のため、製作・モデルグループの講習などは、それ以前に集中で行います。日程は1回目の授業で提示しますが、2コマ連続で行う場合があります。						
[授業計画]					[担当]	
1 回	ガイダンス・役割分担			太田・小出・佐藤		
2 回	製作・モデルグループ	製作	裏方グループ	パンフレット・音響・照明	太田・小出・佐藤	
3 回		製作		パンフレット・音響・照明	太田・小出・佐藤	
4 回		製作		パンフレット・音響・照明	太田・小出・佐藤	
5 回		製作		パンフレット・音響・照明	太田・小出・佐藤	
6 回	ヘアメイク講習 (特別講師)			リハーサル (通し)	太田・小出・佐藤	
7 回	ウォーキング講習 (特別講師)			リハーサル (通し)	太田・小出・佐藤	
8 回	リハーサル (グループ)			前日リハーサル	太田・小出・佐藤	
9 回	リハーサル (グループ)			前日リハーサル	太田・小出・佐藤	
10 回	リハーサル (通し)			ファッションショー本番	太田・小出・佐藤	
11 回	リハーサル (通し)			DVD編集・ジャケット製作	太田・小出・佐藤	
12 回	前日リハーサル			DVD編集・ジャケット製作	太田・小出・佐藤	
13 回	前日リハーサル			DVD編集	太田・小出・佐藤	
14 回	ファッションショー本番			DVD編集	太田・小出・佐藤	
15 回	反省会・DVD鑑賞			太田・小出・佐藤		
試験等	試験は行いません。					
[成績評価] 授業への取り組み方 50%、 製作物 50% 製作物はきれいに仕上げただけでなく、不器用でも一生懸命、頑張ったか、グループ内での作業分担などという点も考慮して評価します。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] ドレスの製作等、準備のため空き時間に作業することがあります。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者 (小出 真理子、佐藤 美保子) ウォーキング講習、ヘアメイク講習については特別講師に行ってもらいます。 オフィスアワーを設定します。研究室掲示板に掲示します。 メールでの連絡・質問 ota@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	消費者調査法 CONSUMER SURVEY		科目コード 222150	(ふりがな) 担当者	(たに しょうこ) 谷 祥子	専任・非常勤 非常勤
	1 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] エクセルとパワーポイントの使用経験があることが望ましいです						
[授業の具体的到達目標] 社会調査の仕組みを理解し、結果を読み解くことができます 調査を組み立て、分析し、結果をまとめて発表することができます						
[授業の概要] 社会調査の基本的な知識として、調査の目的に応じた調査方法や調査対象者の抽出法、調査の集計、分析の方法などを学びます。後半は演習として、グループごとに実際に調査を実施し、結果を集計してまとめ、報告します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	消費者調査の意義					
2 回	消費者調査の種類と方法					
3 回	消費者調査の組み立て					
4 回	調査票の作成					
5 回	調査対象者の選定					
6 回	調査結果の集計					
7 回	調査結果の分析					
8 回	演習①調査の組み立て					
9 回	演習②調査票の作成					
10 回	演習③調査の実施					
11 回	演習④調査の集計					
12 回	演習⑤調査の分析					
13 回	演習⑥調査のまとめ					
14 回	演習⑦調査結果の発表					
15 回	演習⑧課題の検討					
試験等	レポート、調査報告書の提出					
[成績評価] レポート 50%と調査報告書 50%の比率で総合的に評価します						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習：新聞、テレビ、インターネットなどでの調査に関心を持ってください エクセルとパワーポイントの基本的な操作を学習しておくことが望ましいです						
	書 名	著 者	出 版 社			
テキスト	新版消費者調査法	日本衣料管理協会刊行委員会	日本衣料管理協会			
参考文献						
[備考] 授業後半の演習は3~4名のグループワークです メールで質問を受け付けます。メールアドレス： s-tani@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	ブライダルコーディネーション BRIDAL COORDINATION		科目コード 222155	(ふりがな) 担当者	あらかわ まさみ 荒川 雅美	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] ABC (アシスタントブライダルコーディネーター) の資格取得試験の受験をめざすこと、受験意志のない学生の履修は認めない。 アシスタントブライダルコーディネーター検定テキストを必ず購入して下さい。						
[授業の具体的到達目標] ブライダル業界での活躍を目指している人々に求められる実務知識、教養、ホスピタリティマインド、マナーなどウェディングを創造する力を身に付けます。プロから学ぶ授業でブライダルに関する技量をトータルに習得することができ、ABC検定試験に合格することを目的とする。						
[授業の概要] 結婚式は2人にとって人生最大のイベント。その大切な1日に係わるブライダル仕事は、華やかなイメージが先行しがちですが、実際には専門知識だけではなく、さまざまな分野にわたる知識と実践力が必要になります。テキストを使用し実例を挙げながら学びます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ブライダル総論	I	ブライダルはどのような世界か			
2回	ブライダル総論	II	ブライダルビジネスの基本 (ブライダルマーケット、ブライダル業種)			
3回	ブライダル総論	III	ホスピタリティ産業としてのブライダル			
4回	ブライダル総論	IV	ブライダルの基礎 (見合い、結納、披露宴の意義)			
5回	ブライダル総論	V	日本式ブライダルの歴史と文化			
6回	ブライダル総論	VI	欧米式ブライダルの歴史と文化			
7回	ブライダル総論	VII	神前式、キリスト教式、人前式、仏前式の実際			
8回	ABC検定対策	I	ブライダルコーディネーター業務			
9回	ABC検定対策	II	和装、洋装、婚礼衣装全般			
10回	ABC検定対策	III	フラワー、会場コーディネート、ペーパーアイテム			
11回	ABC検定対策	IV	写真、映像、演出			
12回	ABC検定対策	V	披露宴、演出、引出物			
13回	ABC検定対策	VI	料理、マナー			
14回	ABC検定対策	VII	ABC検定練習問題筆記試験			
15回	ABC検定対策	VIII	ABC検定練習問題筆記試験			
試験等	筆記試験					
[成績評価] 学期末試験 40%、小テスト 30%、レポート 30%の比率で総合的に評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 毎回授業の冒頭で振り返り小テストを行うので、前回の授業内容をABC検定テキストを読み復習しておくこと						
	書名	著者	出版社			
テキスト	ABC検定テキスト		公益社団法人日本ブライダル文化振興協会			
参考文献	特になし					
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	栄養学B Life Cycle and Nutrition		科目コード 222180	(ふりがな) 担当者	(ふせ まりこ) 布施 眞里子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] フードコース以外の学生用の授業である。子どもサービスコースの学生には、お勧めの科目である。 社会福祉主事任用資格取得にとっては、選択必修科目の一つである。						
[授業の具体的到達目標] ①人のライフステージごとに、配慮すべき栄養上の課題があることを理解し、その知識を得る。 ②自分が健康に一生を過ごして行くためにはどうしたらよいか考え、今出来ることから実行する。 ③食品と栄養の基礎知識を得る。						
[授業の概要] ヒトは生まれてから死ぬまで、体外から食物を取り入れて栄養活動を行なっている。ヒトのライフステージごとに配慮すべき栄養的課題について解説する。調査レポートなどを課すことがある。 講義が中心だが、自分の考えを述べる、グループで話し合う、という学習方法も取り入れる。						
[授業計画]						[担当]
1回	ヒトの成長と栄養					
2回	胎児期(妊娠期)——ヒトを作る栄養 胎児の成長と母体の変化					
3回	妊娠期——母体と胎児の健康と栄養					
4回	乳児期——母乳の重要性 人工栄養と母乳の違い					
5回	〃 ——離乳食 ベビーフードについて調査 離乳食の与え方 嚥下機能の発達					
6回	幼児期——食べることの基礎と習慣(ヒトとして食べる自立に向けて)					
7回	〃 ——食教育の重要性 歯の健康と咀嚼 食生活上の問題点					
8回	学齢期——成長とそれを支える栄養(考えて食べるために)					
9回	〃 ——食生活上の問題点を考える。学校給食の意義					
10回	〃 ——食育の大切さ 食育についての調査					
11回	青年期(成人期前半)——食生活の自立とは、どういうことか。自分の食生活を振り返る					
12回	〃 ——自立のために今、すべき事を話し合う					
13回	成人期(成人期後半)——生活習慣病の特徴					
14回	〃 ——生活習慣病予防と食事					
15回	高齢期——食べる楽しみと健康管理					
試験等						
[成績評価] 期末試験(70%)、提出物(20%)、受講態度(10%)で評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 教科書は必ず購入すること。それを利用した課題を課すこともある。 資料としてプリントも配布する。授業では毎回、配布物も持参し、復習にも利用すること						
	書名	著者	出版社			
テキスト	三訂 栄養と健康	日本フードスペシャリスト協会 編	建帛社			
参考文献						
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	運動科学 SCIENCE OF EXERCISE		科目コード 222185	(ふりがな) 担当者	こいずみ あや 小泉 綾	専任・非常勤 専任
	2 単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] 特になし。 ただし、フードコースのコース必修、フードスペシャリスト資格の必修科目である。						
[授業の具体的到達目標] ①運動に関わる身体の構造や機能について理解する。 ②運動が他の生活習慣（主として食生活）や健康とどのように関係しているかについて、科学的に理解する。 ③日常生活に適切な運動を取り入れることの重要性を理解し、自分の生活に生かすことのできる知識を身につける。						
[授業の概要] 現代社会において、私たちの生活は機械化され便利になる一方、必然的に本来必要な身体運動が不足しがちとなりやすい。よって、健康的な生活を送るためには、意識的に「適切な運動を行うこと」が望まれる。本講では、健康管理に関わって普段の生活に適切な運動を取り入れることの重要性や、運動に関する知識と方法を身につけることを目的とする。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス：「運動科学」とは					
2回	運動を起こす身体の仕組み①：骨格					
3回	運動を起こす身体の仕組み②：筋肉					
4回	運動を持続する身体の仕組み①：呼吸器系の役割、構造					
5回	運動を持続する身体の仕組み②：循環器系の役割、構造					
6回	運動と食事					
7回	運動と代謝①					
8回	運動と代謝②					
9回	運動と肥満					
10回	体脂肪率とBMI：体脂肪率の測定					
11回	トレーニング①：有酸素運動について（効果的な実施方法など）					
12回	トレーニング②：筋力トレーニングについて（効果的な実施方法など）					
13回	乳幼児からの運動の大切さ：発達にあった運動と体力づくりについて					
14回	女性と運動：成人女性から中高年女性の運動効果					
15回	まとめ：運動の必要性					
試験等	学年末試験を実施					
[成績評価] 学期末試験（80%）、提出物（10%）授業態度（10%）						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 配付したプリントや授業で扱った内容を整理して復習しておくこと。 質問は、オフィスアワー（時間は研究室前に掲示）かメールで受け付けます。koizumi@shohoku.ac.jp						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	授業内で適宜提示する					
[備考] ・テキストは特に指定しないが、授業で必要となる資料は、プリントにして毎週配布する。 ・質問は、オフィスアワー（時間は研究室前に掲示）かメールで受け付ける。koizumi@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	栄養科学 Nutritional Science		科目コード 222200	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] フードスペシャリスト資格を取得したい学生には、必修の科目である。1年次に学んだ栄養素およびライフステージ別の栄養の知識が基礎になるので、復習しておく。						
[授業の具体的到達目標] 食品のなかに含まれる栄養素が食事をすることによって身体にとりこまれ、自分たちの身体のなかでどのようにはたらいているのかを理解する。学んだ知識から自分の食事摂取方法や健康管理に応用することができる。						
[授業の概要] 私たちの健康にとって大切な栄養成分はどのような物質か、その特徴、また体内での消化・吸収の仕組み、さらにそれらが自分たちの体にどのように役立つのか、各栄養素の代謝とその価値について学ぶ。それをもとに、自分の健康にとって何をどのように摂取すると良いかを考察する。						
[授業計画]						[担当]
1回	栄養の概念、健康と疾患について					林
2回	人体のしくみと構造					林
3回	日本人の食事摂取基準(2015)と栄養素の必要量					林
4回	炭水化物の種類、特徴、機能					林
5回	脂質の種類、特徴、機能					林
6回	たんぱく質の構造、種類、機能					林
7回	たんぱく質 - 食物アレルギーのアレルゲン					林
8回	無機質の種類と特徴					林
9回	ビタミン類の種類、生理作用①					林
10回	ビタミン類の種類、生理作用②					林
11回	栄養素消化、吸収、代謝					林
12回	エネルギー消費、基礎代謝(自分の1日のエネルギー消費量を調査・レポート提出)					林
13回	機能性成分 - 食物繊維の働き、抗酸化物質の作用、特定保健用食品					林
14回	生活習慣病と栄養 - 栄養素・食品摂取上の注意					林
15回	免疫と栄養 - 食物アレルギー					林
試験等	期末試験					林
[成績評価] 期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)で評価する						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 前回までの授業の復習として小テストを行うことがあります。範囲は事前に告知するので必ず復習してくること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	三訂 栄養と健康	日本フードスペシャリスト協会 編	建帛社			
	*テキストは1年次の栄養学Aで使用した教科書を使用します。					
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。						

科目名 (英語名)	調理学 (Cookery Science)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			262205			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] 「食品学」「トータルクッキングⅠ」を受講しているほうが望ましい。						
[授業の具体的到達目標] 調理過程におこる様々な現象を、素材の特性、加熱法の特性を踏まえて理解することができる。 料理を作ろうとすると、どのような素材でどう調理すると好ましい状態に仕上げることができるのか、あるいは失敗した原因は何なのか、自ら考えることができる。						
[授業の概要] 主要な調理操作についての特徴を学ぶ。食品の種類ごとに調理中における主要成分の変化や、調理特性を学ぶ。 食品の組織や物性の変化、嗜好性についても学ぶ。内容の理解のために食品を使った演習も含む。						
[授業計画]						[担当]
1回	調理学の概要 調理の意義					
2回	食べ物の嗜好性 (おいしさの要因)					
3回	おいしさの演出 (だしと調味)					
4回	調理操作と器具					
5回	米の調理特性					
6回	小麦粉の調理特性 1					
7回	小麦粉の調理特性 2					
8回	野菜・果物・豆類の調理特性					
9回	食品中の酵素					
10回	食肉、魚介の調理特性					
11回	卵の調理特性 1					
12回	卵の調理特性 2					
13回	油脂・砂糖の調理特性					
14回	乳製品・ゲル化剤 (ゼラチン他) の調理特性					
15回	新調理システム					
試験等						
[成績評価] 毎回の授業の確認小テスト 50% 期末試験 50%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] テキストで予習復習をする						
	書名	著者	出版社			
テキスト	調理学	日本フードスペシャリスト協会編	建帛社			
参考文献	新版 総合調理科学事典	日本調理科学会編	光生館			
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。 パワーポイントを用いて授業を進めます。						

科目名 (英語名)	食品の流通・消費 (FOOD MARKETING)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(はやかわ おさむ) 早川 治	専任・非常勤
			252210			非常勤
2 単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] フードスペシャリストの資格取得を目的とした学習内容です。テキスト、最新のデータ、過去のフードスペシャリスト資格認定試験問題を使用しながらパワーポイントで授業を進めます。						
[授業の具体的到達目標] フードスペシャリスト資格を取得するための学習を通して、食料の消費と流通、日本の農業問題などの食生活をめぐる現実的な理解を深めることができます。						
[授業の概要] ライフスタイルの変化によって食の外食化、簡便化、多様化等が進み、食を取り巻く状況は刻々と変化しています。食生活を支えている農業や漁業の現状は、担い手不足や高齢化など多くの課題を抱えています。また、食をめぐる技術の進歩によって流通の近代化も進みました。こうした食と農をめぐる現状を学びます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	食生活形態の変化ー内食・中食・外食					
2 回	食品消費の変化ー食料品の品目別消費の変化、加工食品の増加					
3 回	現代食生活の諸相ー多様化とその要因					
4 回	日本の食料・農業問題と輸入の実態					
5 回	小売流通の卸売流通ー食料品の中間流通 (中央卸売市場・食品問屋)					
6 回	店舗販売と無店舗販売ーお取り寄せ購買					
7 回	百貨店、総合スーパー、通信販売、生協の役割					
8 回	中間試験					
9 回	業種別専門小売店、会員制問屋、アウトレットモールの現状					
10 回	マーケティングマネジメントの考え方					
11 回	店舗物流システムの構築ー花王、菱食					
12 回	中食・外食と食品産業の現状と問題点					
13 回	食品流通と環境問題					
14 回	食品消費と安全					
15 回	フードスペシャリスト過去問とまとめ					
試験等	科目試験					
[成績評価] 中間試験 20%・期末試験 80%の総合評価						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 予習にあつては、次週の講義内容を伝えるので、テキストを読んで理解しておいてほしい。 復習にあつては、講義内容に係わる過去問を再度理解するよう学習してほしい。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新版 食品の消費と流通	社) 日本フードスペシャリスト協会	建帛社			
参考文献	食料・農産物の流通と市場Ⅱ	日本農業市場学会	筑波書房			
	食料・農業・農村白書	農林水産省	農林統計協会			
[備考] パワーポイントを使って授業を進行します。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	食の企画と演出 Planning and Presentation of Cuisine.		科目コード	(ふりがな) 担当者	こおりやま たかこ 郡山 貴子	専任・非常勤
			262220			非常勤
1 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] フードコース必修科目 他コースは選択できません。						
[授業の具体的到達目標] 身近な食に関する企画を課題に沿って考え、試作を経て練り上げ、わかりやすいプレゼンテーションで他人に提示、提案することができる。提供する食品や料理をより魅力的に見せる効果的な演出について、様々な方向から考えることができる。						
[授業の概要] 食の企画・立案、実施について ①グループ ②個人で取り組み、実践的な力をつける。 ① グループ課題：オリジナルのサラダを考案し、プレゼンテーションと発表会（試食）を実施する。応用として、オープンキャンパスにて食の体験型イベントを実施する。 ② 個人課題：与えられた課題について各自プレゼンテーションを行う。						
[授業計画] 授業計画の順番、日程は変更になる可能性があります。						[担当]
1 回	食の企画①【グループで取り組む】 創作サラダのレシピ開発、プレゼンまでの流れ			郡山		
2 回	サラダの基本素材、ドレッシング調製の理解			郡山 吉川		
3 回	グループでプランニング、テーマ決定、試作			郡山 吉川		
4 回	フードスタイリング演習 フードコーディネーター（特別講師）に教わる			郡山 特別講師		
5 回	プレゼンテーションパネル作成、演出の検討、食材打ち合わせ			郡山 吉川		
6 回	創作サラダ調理、プレゼンテーションと発表会①			郡山 吉川		
7 回	創作サラダ調理、プレゼンテーションと発表会①			郡山 吉川		
8 回	創作サラダ調理、プレゼンテーションと発表会②（オープンキャンパス体験型イベント）			郡山 吉川		
9 回	創作サラダ調理、プレゼンテーションと発表会②（オープンキャンパス体験型イベント）			郡山 吉川		
10 回	食の企画①【グループで取り組む】 評価の集計、振り返り			郡山		
11 回	食の企画②【個人で取り組む】 課題の説明、プレゼンまでの流れ			郡山		
12 回	企画のまとめ発表会およびプレゼンテーションの準備			郡山		
13 回	企画のまとめ発表会およびプレゼンテーションの準備			郡山		
14 回	食の企画①【グループで取り組む】 企画のまとめ発表会			郡山		
15 回	食の企画②【個人で取り組む】 プレゼンテーション			郡山		
試験等				郡山		
[成績評価] 振り返りシートでの評価 40% 課題の評価（プレゼン、レポート） 60%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 事前に伝えるテーマについて、予備知識をもって授業に臨めるように下調べをする。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	新版フードコーディネーター教本(1年次で購入したテキスト)		柴田書店			
参考文献	Salad Café のとっておきサラダレシピ	ケンコーマヨネーズ株式会社	東京書店			
[備考] 上記以外の担当者 吉川光子 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	食品衛生学 (FOOD HYGIENE)		科目コード	(ふりがな) 担当者	たかはしまさひろ 高橋 正弘	専任・非常勤
			222225			非常勤
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] フーズ ペシャリスト試験合格を目指し、食品衛生上の重要事項を理解するために、事前に教科書を読み、復習することを履修条件とします。						
[授業の具体的到達目標] 1 フードスペシャリストとして重要となる食中毒やその予防法などの理解を深める。 2 食品の腐敗・変敗に対する衛生的配慮について理解する。 3 有害化学物質、添加物、残留農薬などについて知識を習得する。 4 食品衛生管理の方法について知識を習得する。						
[授業の概要] 食品は味や栄養に優れ、安全でなくてはならない。ノロウイルスや腸管出血性大腸菌 0157 による食中毒事件を見るまでもなく、消費者の目線で衛生的な食品を入手し、製造者の目線で食品を衛生的に加工・調理するための知識と技術、さらには、食品衛生行政との係わり合いを学びます。 重要事項が漏れないよう、また理解がすすむよう、身近な食品衛生事例などを例にあげ、人に危害を及ぼす微生物と化学物質に深い理解が及ぶように進める。						
[授業計画]						[担当]
1回	食品の安全性 (I)				高橋正弘	
2回	食品の安全性 (II)				高橋正弘	
3回	食品の腐敗・変敗とその防止				高橋正弘	
4回	微生物性食中毒－細菌性				高橋正弘	
5回	微生物性食中毒－細菌性以外				高橋正弘	
6回	自然毒による食中毒、化学性食中毒、経口的寄生虫疾患				高橋正弘	
7回	食品の安全性確保				高橋正弘	
8回	台所などの安全性				高橋正弘	
9回	PCB・ダイオキシン・農薬・内分泌かく乱化学物質による食品汚染				高橋正弘	
10回	残留性有機汚染物質・有害金属・放射性物質による食品汚染				高橋正弘	
11回	器具および容器包装				高橋正弘	
12回	水の衛生				高橋正弘	
13回	食品添加物の表示				高橋正弘	
14回	食品添加物の種類・安全性				高橋正弘	
15回	輸入食品の衛生問題、遺伝子組み換え食品、HACCP				高橋正弘	
試験等	筆記試験				高橋正弘	
[成績評価] 学期末試験(80%)、出席状況や受講態度(20%)で評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 教科書による予習、配布するレジメによる復讐						
	書名	著者	出版社			
テキスト	三訂 食品の安全性	日本フードスペシャリスト協会編	建帛社			
参考文献	スタンダード人間栄養学 食品の安全性	上田成子編	朝倉書店			
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	食品加工学 FOOD PROCESSING		科目コード	(ふりがな) 担当者	(あさひなはるか) 朝比奈はるか	専任・非常勤
			222230			非常勤
2単位	開講期	後期	授業方法	講義		
[履修条件、準備等] フードスペシャリスト資格必修科目であるため、幅広い専門的な内容を取り扱う。受講者は毎回の授業時間に行う小テストの重要性と利便性を認識し、各回ごとに理解を深めておく必要がある。フードスペシャリスト資格を取らない学生の受講も歓迎するが上記のように評価は日常的に行うため、積極的に学び知識を得ようとする姿勢が強く求められる。						
[授業の具体的到達目標] より豊かで安全な食生活を送るために必要な、加工食品に関する知識と理論を学び、実生活に役立てられるようになることを目指す。フードスペシャリストに求められる幅広い知識の習得を目的とする。知識や技術的理論の理解の上に、食品のラベル情報から、個々の加工食品の製造方法や原材料を判断できるようになることを具体的な目標とする。						
[授業の概要] 食品各論、食品加工の技術、および食品の品質変化と貯蔵法などに関する理論を学ぶ。より深い理解のため、実物を使ったワークも行う。食品加工に関する調査を授業時間外に行い授業で発表する。さらに、消費者あるいは製造者の立場の両面から食品加工について理解を進めるための課題に取り組む。						
[授業計画]						[担当]
1回	食品の加工・貯蔵の意義、授業開始に当たってのワーク					
2回	食品の貯蔵・加工に伴う品質の変化(品質劣化の原因と関係する環境要因)、植物性食品の加工					
3回	植物性食品の加工					
4回	植物性食品の加工、動物性食品の加工					
5回	動物性食品の加工					
6回	動物性食品の加工					
7回	食用油脂、調味料					
8回	嗜好性食品、食品中の成分間反応					
9回	スパイス、食品の酸化と酵素関与の変化					
10回	食品の保存・貯蔵法(水分活性、PH、凍結、燻煙、除菌、照射、添加物)					
11回	加工食品の規格と表示制度、食品に関する調査					
12回	食品の包装、調査発表					
13回	新しい食品、応用ワーク、調査発表					
14回	新製品の企画に関するグループワーク					
15回	まとめ					
試験等	期末試験					
[成績評価] 授業での小テストおよび課題提出(普段点として50%)、そして期末試験(50%)により総合的に評価する。出席については、規定に基づき全出席日数の1/3を超えて欠席した者には単位を認定できない。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 専門用語や理論について、授業内容を各回理解してから次の授業に進む必要がある。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	食品学各論 (1年時の食品学で使用した物)	瀬口正晴、八田一	化学同人			
参考文献	特になし					
[備考] 教科書は必須である。その他、プリントを配布する。原則として授業中に小テストを行い普段点に加算する。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	フードスペシャリスト論 Food specialist		科目コード 222235	(ふりがな) 担当者	(ふせ まりこ) 布施 眞里子	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等] フードスペシャリスト資格試験受験のための必修科目。 資格試験を受験しない学生を受講も可能であるが、授業時間内に行うミニテスト（資格試験の方式に準じた方法）もあり、内容的にも専門的であることを了解した上で、しっかり学んでほしい。 なお試験準備のため、授業日程を多少変更して行う場合がある（授業開始後に指示する）。						
[授業の具体的到達目標] ①フードスペシャリストにとって必要な知識を理解する。 ②復習をしっかりと行ない、ミニテストの正解率は50%以上を目指す。						
[授業の概要] ①フードスペシャリストの仕事とは何か、またその仕事に求められる知識や技術について学ぶ。 ②12月のフードスペシャリスト資格試験に向けての、問題練習を毎回おこなう（ミニテスト）。						
[授業計画]						[担当]
1回	フードスペシャリストとは——業務と専門性 養成と資格 活躍分野 責務					
2回	現代日本の食生活① 戦後の食生活の変化					
3回	現代日本の食生活② 現状と消費生活 変化と食産業					
4回	現代日本の食生活③ 食料の供給と食料自給率 環境と食					
5回	食品産業の役割① フードシステム 食品製造業の規模と動向 食品製造業の目的と特徴 食品卸売業					
6回	食品産業の役割② 食品小売業 外食産業					
7回	食品の品質規格と表示① 品質規格と表示にかかわる法律					
8回	食品の品質規格と表示② JAS法による規格と表示					
9回	食品の品質規格と表示③ 食品衛生法による規格と表示					
10回	食品の品質規格と表示④ 健康増進法による規格と表示 コーデックス規格					
11回	食情報と消費者保護① 食情報の発信と受容 食情報の濫用 食品の情報管理					
12回	食情報と消費者保護② 食品の安全 消費者保護の制度					
13回	人類と食物——人類の歩みと食物 食品加工・保存技術史					
14回	世界の食。 日本の食					
15回	世界の食、日本の食についての調査発表					
試験等						
[成績評価] ミニテスト成績（60%）、調査・発表の内容及びレポート（30%）、受講態度（10%）						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 毎回授業の始めにミニテストを行うので、しっかり復習してくること。 遅刻をするとミニテストを受けられないので、注意する。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	四訂 フードスペシャリスト論 (第3版)	日本フードスペシャリスト協会編	建帛社			
参考文献						
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	食品評価演習 (Food Evaluation)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(よしかわ みつこ) 吉川 光子	専任・非常勤
			222240			専任
2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] フードスペシャリスト資格認定試験(12月)の内容に対応させた科目ですが、資格を目指さない人も受講できます。「調理学」と「食品学」を受講していることが望ましい。演習はグループをつくって行います。2コマ連続授業です。テストには、テキストの表などを使用して解く問題があります。テキストは必ず購入してください。						
[授業の具体的到達目標] 食品の品質特性を評価するために、官能評価の計画をたてて実施することができる。 主要食品について、それぞれどのような種類があるのか知り、食品の品質について考察することができる。						
[授業の概要] ・食品の性状や品質、嗜好性を評価するための官能評価について学ぶ。(講義、演習) ・主要食品について、その特性や食商品としての展開を知り、品質について学ぶ。 ・フードスペシャリスト試験に向けて、練習問題に取り組む。試験を受けない受講生は、別の演習課題に取り組む。						
[授業計画]						[担当]
1回	食品のおいしさの評価について		食品官能評価の基本			
2回	官能評価 2点比較法について					
3回	官能評価 3点比較法・順位法について					
4回	官能評価 評点法について		フードスペシャリスト試験対策 ①			
5回	官能評価のまとめ、グループでの演習課題(官能評価)への取り組み①					
6回	グループでの演習課題(官能評価)への取り組み②		米の品質について			
7回	野菜・果物の鮮度や品質について		フードスペシャリスト試験対策 ②			
8回	卵の品質について		卵の鮮度判定(演習)	確認テスト		
9回	グループでの演習課題への取り組み③		フードスペシャリスト試験対策 ③			
10回	グループでの演習課題への取り組み④		フードスペシャリスト試験対策 ④			
11回	肉・魚介類の鮮度や品質について		フードスペシャリスト試験対策 ⑤			
12回	豆類、醸造食品の種類と品質について		乳製品の種類と品質について			
13回	グループでの演習課題への取り組み⑤		スライド作成			
14回	グループでの演習課題への取り組み⑥		発表会			
15回	食商品リサーチ(非受験者)の発表会					
試験等						
[成績評価] 授業内の官能評価への取り組み(10%)、グループでの演習課題(20%)、食商品リサーチ課題(10%) 確認テスト(授業内)と期末試験(60%)						
[準備学習(予習・復習等)の内容] テキストを使って予習復習をする。						
	書名		著者		出版社	
テキスト	三訂 食品の官能評価・鑑別演習		日本フードスペシャリスト協会		建帛社	
参考文献	フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集2016年版		日本フードスペシャリスト協会		建帛社	
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談に来てください。 パワーポイントを用いて授業を進めます。						

科目名 (英語名)	インテリア設計Ⅱ Interior Design II		科目コード 262295	(ふりがな) 担当者	おおはし すみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 製図用具一式を準備すること。						
[授業の具体的到達目標] ・インテリアの平面図、展開図、家具図を作成する力を身につける。 ・インテリア設計のオリジナル作品を完成し、発表する。						
[授業の概要] インテリアデザイン計画に取り組む。インテリアの計画は、どのような人がどのように使うかという生活行動を考慮し、快適に生活できる空間を考える。課題に対して、生活行動を考慮した住まい方のコンセプトおよびデザインコンセプトを立案し、そのコンセプトを具現化した平面図、展開図、および家具の三面図、アクソメなどを作成し提案する。						
[授業計画] ※授業の進行状況によって授業内容が変わることがあります。						[担当]
1回	ガイダンス・平面図作成					
2回	平面図作成					
3回	展開図のレクチャー・作成					
4回	展開図作成					
5回	家具図レクチャー・作成					
6回	アクソメのレクチャー・作成					
7回	課題提示 インテリアデザイン計画のコンセプト立案・家具選択					
8回	エスキス1					
9回	エスキス2					
10回	作図					
11回	作図					
12回	作図					
13回	作図					
14回	ボードコラージュ					
15回	発表会					
試験等						
[成績評価] 課題への取り組み姿勢 30%、作品・プレゼンテーション評価 70%として評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 作品完成までの毎回のスケジュール管理をしっかりと行い、必ず提出期限を守ること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	インテリアコーディネーター資格試験 はじめてのインテリア製図	星野 智子	(株)ハウジングエージェンシー出版局			
参考文献	特になし					
[備考] オフィスアワーを設定します。時間を研究室に貼り出しますので、相談に来てください。						

科目名 (英語名)	インテリア販売 INTERIOR SALES		科目コード	(ふりがな) 担当者	つちや ちづこ 土屋 千寿子	専任・非常勤
			242340			非常勤
2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] インテリアに関心があり 接客販売の基本知識を真剣に学びたい 意欲ある学生を優先 (1クラス30人超えた場合は抽選) 第1回スタート前に テキストを購入して下さい ☞ 1級・2級 リビングスタイリスト資格試験 公式テキストを使用						
[授業の具体的到達目標] 生活に欠かせないインテリアの基礎知識を習得しながら その方面に進むためのスキルを身に付けましょう。 『 “リビングスタイリスト” 取得にチャレンジ! 目標・進路へ向けて GO! 』						
[授業の概要] インテリア関連品を扱う業種やショップなどでは特に、お客様の満足を得ながらきちんと接客販売できるスタッフの存在が強く望まれています。 基本的な“知識と技能”の習得を通して 実務に役立つ = “期待される人材”になるための 必要不可欠な事柄を伝えていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	「インテリア販売とは…」	仕事の役割 必要な知識				
2回	《流通》	流通の仕組み 生産～販売～消費者 小売業の役割と形態				
3回	《情報》	情報の種類/収集/活用 … マーケティングの基礎				
4回	《販売》	基本業務 … 売場管理～事務処理～接客販売の流れ				
5回	《接客》	身だしなみ・聞き方・話し方 … “態度” 対応方法				
6回	《ビジネスマナー》	社会人・職業人の基本心得		◎ レポート課題		
7回	《法規》	住生活品の法規制				
8回	商品知識	《家具》	椅子/テーブル・机/ベッド/収納 … 機能と分類			
9回		《窓装飾》	カーテン/シェード/スクリーン/ブラインド … 種類			
10回		《照明》	基礎 … 光源・照明器具			
11回		《設備》	キッチン/バス/トイレ … リフォーム			
12回		《生活小物》	アート/グリーン/テーブルウェア … アクセサリー			
13回	《ディスプレイ》	商品の見せ方/場づくり … 人・モノ・シーン				
14回	《コミュニケーション》	実践トレーニング … 演習 ロールプレイング				
15回		○ 総チェック				
試験等	無し					
[成績評価] 受講態度 30% 授業内ミニテスト 40% 演習作業・課題 (提出期限&内容) 30% … 総合評価とする						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業内で 毎回ミニテストを実施する … 「予習・復習」 必修						
	書名	著者	出版社			
テキスト	1級2級リビングスタイリスト					
	資格試験 公式テキスト	(社)日本ライフスタイル協会	(株)ハウジングエージェンシー			
参考文献	特になし					
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	インテリアデザイン プロデュース Interior Design Produce		科目コード 242345	(ふりがな) 担当者	おおはし す み こ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	1単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] プロジェクトの成功を目指して、協調性と積極性がある姿勢を求めます。 インテリアデザインコースの必修科目です。インテリアデザインコース以外の学生は、水上・大橋ゼミナール履修者が、履修可能です。						
[授業の具体的到達目標] 目標は「インテリアデザインショーの実施・成功」です。具体的には、インテリアデザインショーの企画・デザイン検討・制作・発表を通じて、① 協同で作りに上げる協調性を身につける。② インテリアデザイン技術の習得 ③ ショーとしての表現力の習得を、目指します。						
[授業の概要] ① インテリアデザインショーのステージ空間を把握する。 ② デザインの検討から、家具選択、小物制作まで行い、実物大で完成させる。 ③ インテリアデザインイメージにあった映像・音響などを検討する。 ④ インテリアデザインショーの企画・運営をする。 ショーとしての表現(説明・家具の見せ方・運び方・お客様参加型の方法など)を身につける。						
[授業計画] ※進行状況に応じて、授業内容を変更する場合があります。						[担当]
1回	ガイダンス / インテリアデザインショーとは					
2回	ステージを確認する					
3回	デザイン検討1					
4回	デザイン検討2					
5回	デザイン検討3					
6回	空間装置・家具選択・小物制作1					
7回	空間装置・家具選択・小物制作2					
8回	空間装置・家具選択・小物制作3					
9回	空間装置・家具選択・小物制作4					
10回	空間装置・家具選択・小物制作5					
11回	映像・音響検討1 / 口頭説明内容検討1					
12回	映像・音響検討2 / 口頭説明内容検討2					
13回	ショーとしての表現練習					
14回	インテリアデザインショーの予行練習1					
15回	インテリアデザインショーの予行練習2					
試験等	試験なし 7/31日 インテリアデザインショー実施					
[成績評価] 制作・運営への取り組み姿勢60%、ショーでのプレゼンテーション40%として評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] インテリアデザインショー本番までのスケジュールをしっかりと把握し、欠席ややる気のない態度などで、全体の動きを乱すことがないように積極的に参加してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] 上記以外の担当者：水上裕、佐藤美保子 クラス編成：水上クラス、大橋クラス オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼りだします。相談に来てください。						

科目名 (英語名)	インテリア構法 INTERIOR CONSTRUCTION		科目コード 262630	(ふりがな) 担当者	ふじえ そう 藤江 創	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] インテリアデザインコースの必修科目です。今までに体験したインテリアでもっとも気に入っているものについて、説明できるようにしておくこと。住宅見学時の交通費がかかります。						
[授業の具体的到達目標] インテリアを形あるものにするための力と形の関係が分かる。 インテリアを形あるものにするための各種構法についての基本的な仕組みと用語を知る。 室内を構成する要素についての基本的な仕組みや用語を知る						
[授業の概要] インテリアに関わる仕事を進めていくためには、空間を取り囲む建築構造物を創り上げるための構法についての理解が必要です。力と形を知った上で、さまざまな建築構法や、室内空間を構成するさまざまな要素について解説します。講師が実際に手がけた実例を紹介し、理解度を深めます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス、力と形の事例(彫刻、家具)紹介					
2回	インテリア事例の紹介					
3回	力と形について考える①					
4回	力と形について考える②					
5回	力と形について考える③					
6回	力と形について考える④					
7回	建築構法の解説①					
8回	建築構法の解説②					
9回	室内を構成する要素の解説①					
10回	室内を構成する要素の解説②					
11回	実例の紹介と解説(住宅見学会)①					
12回	実例の紹介と解説(住宅見学会)②					
13回	実例の分析①					
14回	実例の分析②					
15回	分析結果の発表					
試験等	試験なし 15回目の授業時に、実例分析の発表会を行います。					
[成績評価] 学習への取組(受講態度、準備学習)60%、課題の発表及び内容 40%						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 常にインテリアを意識して生活をする。そして気に入った空間は記録して紹介できるようにしておくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	なし					
参考文献	かたちの理由	クリストファー・ウィリアムズ	ピー・エヌ・エヌ新社			
	インテリアデザイナーの技術		(社)インテリア産業協会			
	コバ 外建築設計資料集インテリア	日本建築学会編	丸善株式会社			
	木造住宅ディテール集	藤江創ほか著	エクスナレッジ			
[備考] マルチメディアの利用。最終講義以外は、2限連続講義とする。振替休講については初回講義時の講義予定表で発表する。見学会では注意事項厳守。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	インテリア設計 III Interior Design III		科目コード	(ふりがな) 担当者	みず がみ ゆたか 水 上 裕	専任・非常勤
			262270			専任
2 単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] インテリア設計 I を履修済であること。専用のルーズリーフバインダー(A5 判)を用意して下さい。						
[授業の具体的到達目標] 住居・インテリアにおける体系的な知識や技能をもとに、設計課題に対して自ら企画立案したものを成果物として美しくまとめ、その成果を要領よく発表する力を身につけます。						
[授業の概要] 店舗併用住宅を設計し、質の高い作品づくりを目指します。特に店舗に関してはリアルな模型を製作します。						
[授業計画]						[担当]
1 回	課題の説明、設計条件の把握、イメージシートの作成					
2 回	エスキス(所要室、規模、ゾーニング)					
3 回	エスキス(ゾーニング、動線、デザインイメージ)					
4 回	エスキス(デザインイメージ、構造、法規)					
5 回	エスキス(デザインイメージ、設備、インテリア)					
6 回	エスキス仕上げ					
7 回	エスキス仕上げ・プレゼンテーションスタディ					
8 回	中間講評会、エスキス修正					
9 回	設計製図・模型製作					
10 回	設計製図・模型製作					
11 回	設計製図・模型製作					
12 回	プレゼンテーション用作品づくり					
13 回	プレゼンテーション用作品づくり					
14 回	最終仕上げ(完成)					
15 回	発表会、質疑への対応・完成度を上げたうえで後日提出					
試験等	試験は行わない、作品の提出					
[成績評価] 課題への取り組み(意欲・態度、エスキスチェック、中間発表)30%、プランニングと完成図面 30%、模型・プレゼンテーション 40%の総合評価						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 毎回「目のつけどころ(形、色、材料)」や「実践してみよう」を提示、予習・メモ書きの上授業に臨むこと。また、授業開始時に前回の配布プリントが理解できているかを確認するので必要なことを記録し、きちんとファイリングしていくこと。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	インテリアデザイン・コース	トリムス・タンガズ	グラフィック社			
[備考] オフィスアワーとメールアドレスは研究室扉に掲示、質問・連絡はメール可。						

科目名 (英語名)	家族とインテリア Family and Interior		科目コード 242350	(ふりがな) 担当者	おおはし すみこ 大橋 寿美子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] インテリアデザインコースは必修科目、他のコースは選択科目であるがインテリアに興味がある学生のみ履修可。 129 教室使用のため人数が多い場合は初回到履修者を決定する。初回欠席者は事前に申し出ない限り、履修不可とする。						
[授業の具体的到達目標] ・現在の日本の家族の実態を把握する ・図面が読める ・インテリアのデザインスタイルを知る ・各室のインテリアデザインを知る ・ライフスタイルやステージにあったインテリアを知る ・インテリアイメージから家具配置を考えることができる ・インテリアデザインを表現する						
[授業の概要] インテリアはモノと人、人と人をつなぎ合わせる技術です。使う人が使いやすく、美しいインテリアデザインとはどんなものか。空間ごとに、それぞれ考えていきます。授業のまとめとして、自分の好みのインテリアイメージから家具の配置計画、およびインテリアイメージを表現する方法を学ぶ						
[授業計画] ※授業の進行状況の応じて、内容を変更する場合があります。						[担当]
1回	ガイダンス					
2回	日本の家族の実態と課題					
3回	キッチンと空間 1					
4回	トイレ・バス・洗面化粧台と空間 1					
5回	トイレ・バス・洗面化粧台と空間 2					
6回	トイレ・バス・洗面化粧台と空間 3					
7回	リビング・ダイニング					
8回	共に住むさまざまな暮らしとインテリア 1					
9回	共に住むさまざまな暮らしとインテリア 2					
10回	共に住むさまざまな暮らしとインテリア 3					
11回	振り返り・小テスト					
12回	実物を見て確認しよう！ LIXIL厚木ショールーム見学会					
13回	家族とインテリア提案 1 作業					
14回	家族とインテリア提案 2 発表 1					
15回	家族とインテリア提案 3 発表 2					
試験等						
[成績評価] 授業中の態度 25%、提出物とその発表 25%、小テスト 50%により評価する。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業で配布するプリントを自分なりに整理して、身の回りのインテリアを見直してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考] メールでの質問および欠席時の連絡などを受け付けます。メールアドレス : ohashi@shohoku.ac.jp						

科目名 (英語名)	インテリア雑貨とファニチャーデザイン		科目コード	(ふりがな) 担当者	まえだ くみこ 前田 久美子	専任・非常勤
	Interior Accessories & Furniture Design		262640			非常勤
1単位	開講期	後期	授業方法	講義/演習		
<p>[履修条件、準備等]</p> <p>図面を読む・描くという基本的な能力が身についている上での履修が望ましい。課題に対して真摯に取り組み、完成に向けて努力することが必要である。履修希望者が30名を超える場合には、インテリアデザインコースを優先して、抽選する。</p>						
<p>[授業の具体的到達目標]</p> <p>1. インテリアエレメントを空間と関連づけた視点を養い、企画、制作ができる。 2. 生活に役立つアイデアとその効果を理解できる。</p>						
<p>[授業の概要]</p> <p>インテリアエレメントの中の小物や家具について、室内空間との関連を考えた上でデザインする方法を学ぶ。</p>						
[授業計画] クラスの状況や課題進捗状況で、内容や順番が変更になる場合があります。						[担当]
1回	オリエンテーション 室内空間における雑貨や家具の持つ意味					
2回	インテリアの各種アイテムとその活用方法を学ぶ					
3回	インテリア雑貨の制作 フォトフレーム1					
4回	インテリア雑貨の制作 フォトフレーム2					
5回	照明のデザインについて考える					
6回	デザイン画を描く ランプシェードのアイデアスケッチ					
7回	ランプシェードの制作					
8回	ランプシェードの制作とプレゼンテーション					
9回	家具のデザインについて考える					
10回	段ボールチェアのアアイデアスケッチ					
11回	段ボールチェアの試作模型					
12回	段ボールチェアの制作1					
13回	段ボールチェアの制作2					
14回	段ボールチェアの制作3					
15回	完成作品のプレゼンテーション					
試験等	実習					
<p>[成績評価]</p> <p>取り組み姿勢 30%、複数の課題すべての評価60%、プレゼンテーション10%の総合評価とします。 全て講義内で取り組みます。</p>						
<p>[準備学習 (予習・復習等) の内容]</p> <p>日常から生活することに興味を持ち、気づいたことをメモやデータで記録しておいてください。</p>						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献						
[備考] 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	食空間コーディネート演習 (Dining space designing)		科目コード	(ふりがな) 担当者	ひがしきよみ	専任・非常勤
			262650			非常勤
1単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習		
[履修条件、準備等] インテリアデザイン、フードコースのみ受講可能です。食空間コーディネーター3級資格取得のための講座です。受講には指定テキストの購入、フラワーアレンジメント実習の材料費 2,000 円および資格登録料 7,560 円が必要です。当資格について詳しいことは、授業初回で説明します。						
[授業の具体的到達目標] 食空間コーディネートを理解し、和洋のテーブルウェアの知識、歴史的背景を習得。 食と器の関係、各料理の知識や料理に合わせた食器のイメージスタイルを習得し、国内外の季節の行事や季節感の表現、食卓を囲む際のマナーなど、幅広く学び、最終的には、TALK 食空間コーディネーター3級資格を取得します。						
[授業の概要] 和洋の基本的なコーディネートから国内外の行事に関するテーブルコーディネート実習、フラワーアレンジメント実習を致します。テーブルウェアについては、実物をお見せし、材質や技法などをご紹介します、講義と実習を取り入れて進めてまいります。授業は2コマ連続で2回分ずつ進みますが、日程は授業初回までに掲示で連絡します。						
[授業計画]						[担当]
1回	総論： 食空間コーディネーターとは・テーブルコーディネートの基礎・セゾナルテーブル実習					
2回	卓育： 食育基本法について・卓育とは、その役割について・キッズテーブル実習					
3回	テーブルコーディネートアイテムⅠ： 和陶磁器、洋陶磁器について・その材質や技法について					
4回	テーブルコーディネートアイテムⅠ： ガラス食器、漆器、その他・箸、カトラリーについて					
5回	テーブルコーディネートアイテムⅡ： 食卓装飾品、照明、センターピースについて・フラワー実習					
6回	色彩・テーブル布： リネン、配色テクニックについて・テーブルカラーコーディネート実習					
7回	コーディネート： 食空間のあり方について・基本の洋食卓コーディネート実習					
8回	コーディネート： 一汁三菜・基本の和食卓コーディネート実習・中国料理のセッティングについて					
9回	コーディネート： 日本の行事や歳時について・五節句のテーブルコーディネート実習					
10回	コーディネート： 海外の行事や歳時について・海外の行事のテーブルコーディネート実習					
11回	コーディネート： ホームパーティーについて・ビュッフェパーティーコーディネート実習					
12回	コーディネート： アフタヌーンティーについて・ティーテーブルコーディネート実習					
13回	おもてなし料理： 日本料理、西洋料理について・西洋料理のニューアレンジメント実習					
14回	おもてなし料理： 中国料理・酒類、飲料類・和洋中のマナー・箸、カトラリーの扱い方について					
15回	まとめ： 各カリキュラム終了後に提出して頂いたチェックシートの復習ならびに回答					
試験等	試験は致しません。チェックシートにて確認致します。					
[成績評価] チェックシート：80% (各講座終了後、確認の為のチェックシートに回答して頂きます。試験ではありません。) 受講態度：20%						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業計画に基づき、事前にテキストの該当箇所を読み、毎回履修したことの復習 (確認) を行い、理解を深めて下さい。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	TALK 食空間コーディネーター テキスト3級	NPO 法人 食空間コーディネーター協会	(株)優しい食卓			
参考文献	食と器～伝え残したい季節の料理	ひがしきよみ	(株)優しい食卓			
[備考] 上記以外の担当者：佐藤美保子 授業終了後にオフィスアワーを設けますので、質問があればいらしてください。						

科目名 (英語名)	創作絵本の制作 Picture Book Produce		科目コード 252385	(ふりがな) 担当者	(さとう みほこ) 佐藤 美保子	専任・非常勤 非常勤
	1 単位	開講期	前期	授業方法 演習		
[履修条件、準備等] ・絵本に興味がある学生 ・フォトショップ、パワーポイントといったパソコンソフトを使用しますが、初心者でも履修可です。 ・グループでの活動に意欲的に取り組める学生（グループで1つの作品を作ります）。						
[授業の具体的到達目標] ・絵本制作の基礎知識を学び、その知識をもとに実際に自分たちで絵本を制作することができる。 ・パソコンによる描画編集の技術習得と、プレゼンテーション能力を身につけることができる。						
[授業の概要] 子どもの言葉の発達と絵本の意義、絵本作りの基礎を学びます。その上で、絵本制作で使用するパソコン技術の基礎を、実際に操作しながら身につけます。グループで絵本のストーリー作り、絵コンテの制作を行ない、その後、パソコンでの制作に入ります。最終発表では、子どもに実際に読み聞かせるように、プレゼンテーションを行ないます。						
[授業計画]						[担当]
1 回	ガイダンス・子どもの言葉の発達・絵本作りの基礎					
2 回	絵本の魅力（読み聞かせの実習含む）					
3 回	パソコンによる製作の基礎 ①（フォトショップ）					
4 回	パソコンによる製作の基礎 ②（パワーポイント）					
5 回	絵本のストーリー作り ①					
6 回	絵本のストーリー作り ②					
7 回	パソコンによる絵本製作 ①					
8 回	パソコンによる絵本製作 ②					
9 回	中間発表					
10 回	パソコンによる絵本製作 ③					
11 回	パソコンによる絵本製作 ④					
12 回	パソコンによる絵本製作 ⑤					
13 回	作品の発表					
14 回	絵本の製本 ①					
15 回	絵本の製本 ②					
試験等	試験は行いません					
[成績評価] ・グループ活動での参加態度・貢献度（60%）、作品および発表内容（20%）、最終発表後のレポート（20%）						
[準備学習（予習・復習等）の内容] ・毎週少なくとも1冊は絵本を読んで、制作の参考にしてください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	プリント配布					
参考文献	特になし					
[備考] 授業終了後にオフィスアワーを設けます。質問等あれば、非常勤講師控室に来て下さい。						

科目名 (英語名)	子どもの食生活 (演習含む) Child Nutrition		科目コード 232400	(ふりがな) 担当者	はやし のりこ 林 典子	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] 実習の日は、エプロン、三角巾またはバンダナ、ハンドタオルを準備し、つめは短くマニキュアは必ずとってください。実習材料費がかかります (全部で 500 円程度)。						
[授業の具体的到達目標] 食物や栄養の基本的な知識が身につくとともに、子どもの心身の発育・発達と食生活の関係について理解を深めることができます。さらに、育児用ミルクの調製や、離乳食、間食の調理を通して、その技術を習得することができます。						
[授業の概要] 食べることは、小児期では心身の発育・発達の基礎となります。子どもの発達段階における食生活について、母乳、乳汁、食物からの栄養素の摂取の重要性、調理形態の変化、調理法などを講義および実習をとおして学びます。また、近年問題となっている食物アレルギーとその対応についての理解を深めます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス、子どもの食生活と栄養					林
2回	小児の発育・発達と栄養					林
3回	栄養に関する基礎知識① 栄養素の種類と機能					林
4回	栄養に関する基礎知識② 献立と調理の基本					林
5回	妊娠期・授乳期の食生活、授乳と食物アレルギー発症の関係					林
6回	乳児期の食生活① 乳汁栄養					林
7回	[実習] 調乳 (通常のみルク、アレルギー用みルク)					林
8回	乳児期の食生活② 離乳					林
9回	[実習] 離乳食の調理①					林
10回	[実習] 離乳食の調理②					林
11回	幼児期の食生活					林
12回	[実習] おやつ調理①					林
13回	[実習] おやつ調理②					林
14回	乳幼児期の食生活と問題点 (調査発表)					林
15回	まとめ					林
試験等						林
[成績評価] 受講態度 30%、小テスト 10%、グループ発表 20%、レポート・その他提出物 40% *提出物は期日を守り、必ず提出するようにしてください。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 前回までの授業の復習として小テストを行うことがあります。範囲は事前に告知するので、必ず復習してください。 配布されたプリントは、A4 のファイルにまとめて管理してください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト						
参考文献	新版 子どもの食生活	上田玲子 (編著)	ななみ書房			
	子どもの食と栄養	堤ちはる、土井雅子	萌文書林			
	子どもが喜ぶ食物アレルギーレシピ 100	海老澤元宏 (監修)	成美堂出版			
[備考] 必要に応じてパワーポイントを使用し、補助教材としてプリントを配付します。 オフィスアワーを設定します。時間を研究室扉に貼り出します。相談にきて下さい。						

科目名 (英語名)	ユニバーサルファッションの演習 Seminar on universal fashion		科目コード 222125	(ふりがな) 担当者	おおの よしこ 大野 淑子	専任・非常勤 非常勤
	1単位	開講期	前期	授業方法	演習	
[履修条件、準備等] 内容により進捗確認や個人指導が必要になるため、履修希望者が25名を超えた場合、抽選を行う。 子どもサービスコースのみ受講可。						
[授業の具体的到達目標] ユニバーサルファッションの意義や様々な事例を知ることにより、身近な社会貢献のための具体的な方法を身につけ実践できる。						
[授業の概要] 年齢や障害に関わらず、誰もがファッションを楽しむ権利があるというユニバーサルファッションの基本的な考え方を理解し、実践できる技術を学ぶ。						
[授業計画]						[担当]
1回	ユニバーサルファッションの理念					大野
2回	小物製作① 体を洗うミトン					大野
3回	小物製作② 頭を守る帽子					大野
4回	小物製作③ 靴下をはくための自助具					大野
5回	小物製作④ 髪を結ぶための自助具					大野
6回	小物製作⑤ 組みひも					大野
7回	被服市場の現状					大野
8回	高齢者・障害者の被服①					大野
9回	高齢者・障害者の被服②					大野
10回	衣服のリフォーム事例紹介					大野
11回	ポロシャツのリフォーム①					大野
12回	ポロシャツのリフォーム②					大野
13回	車いすの着付け					大野
14回	ユニバーサルファッションについて調べる					大野
15回	調べた内容を発表する					大野
試験等	試験は行わず、製作物、発表、最終レポートで評価する。					
[成績評価] 授業態度、取り組み方50%、製作物・レポート等の課題50%で評価する。						
[準備学習(予習・復習等)の内容] 欠席も含め、時間内に終わらなかった場合は、時間外で仕上げて提出することが望ましい。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	あなたは服に満足していますか	岩波君代・渡辺聡子・大野淑子	福祉技術研究所			
	美容福祉概論	山野美容芸術短期大学 編集	中央法規			
[備考] 教材費(2,000円程度) 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける。						

科目名 (英語名)	子どものワークショップ演習Ⅱ (Workshop for Child Ⅱ)		科目コード	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤
			222415			専任
1 単位	開講期	前期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等]						
<ul style="list-style-type: none"> 子どもと実際に活動することに興味があるだけでなく、グループ活動、準備等にも積極的に取り組むこと。 遅刻・欠席をしないこと。と曜日あるいは休日のワークショップへの出席は必須となる。 履修希望者が40名を超えた場合は、子どもサービスコースの学生の履修を優先する。 						
[授業の具体的到達目標]						
<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けのワークショップについて調べることで、ワークショップを企画するさいの知識を深める。 調べたことを参考に、自分たちでワークショップを企画し、運営する能力を身につける。 企画したワークショップを実施し、子どもと関わる能力を実践的に身につける。 						
[授業の概要]						
<p>この授業では1年次科目「子どものワークショップ演習Ⅰ」よりも専門性を高めたワークショップを実施する。そのためまず、これまでにこなわれてきた子ども向けのワークショップの調査をおこない、その後で自ら企画を考えていく。1つのワークショップを企画・実施することで、企画力と子どもと関わる力を身につけることを目的とする。</p>						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス・子ども向けワークショップの基礎					佐藤
2回	子ども向けワークショップの調査					佐藤
3回	第2回の結果を発表する					佐藤
4回	子ども向けワークショップの企画・準備 (1)					佐藤
5回	子ども向けワークショップの企画・準備 (2) 各グループの企画発表					佐藤
6回	子ども向けワークショップの企画・準備 (3)					佐藤
7回	子ども向けワークショップの企画・準備 (4)					佐藤
8回	子ども向けワークショップの企画・準備 (5)					佐藤
9回	ワークショップのリハーサル (1)					佐藤
10回	ワークショップのリハーサル (2)					佐藤
11回	子ども向けワークショップ開催 (土休日の予定)					佐藤
12回						佐藤
13回						佐藤
14回	ワークショップの振り返り					佐藤
15回	まとめの発表					佐藤
試験等						
[成績評価]						
授業への参加状況 (70%)、振り返りの発表・レポート (30%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容]						
授業時間外でも積極的に準備を進める必要がある。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	特になし					
[備考]						

科目名 (英語名)	社会福祉論 Social Well-being		科目コード 222465	(ふりがな) 担当者	はたおか たかし 畑岡 隆	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義	
[履修条件、準備等]						
1. 履修条件は問いません。 2. 前回の続きや復習から授業を始める場合もあるので、前回の「まとめプリント」を持参してください。 3. 社会福祉は、現代社会では自分の生活や人生の一部という意識で受講してください。						
[授業の具体的到達目標]						
1. 「生活と福祉」という視点から、社会福祉の基礎的な知識や見方を理解し、必要な時に使えるようになる。 2. 福祉の課題を客観的に捉えるだけでなく、「もし自分に起きたら」という身近な距離で考えられるようになる。 3. 感じたことや思ったこと、考えたことをきちんとした文章にして表現し、相手に伝える力を高める。						
[授業の概要]						
「生活の学、実践の学」といわれるように、社会福祉の課題の多くは誰にでも起きる可能性のある問題です。広い視野で社会福祉について理解を深めるとともに、自分や自分の身近で起きたらどうするかという問題にも取り組んでいただきます。前半は社会福祉の全体像、後半は子育てや児童家庭福祉を主に取り上げます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス、「人」の歴史					
2回	社会福祉の歴史1					
3回	社会福祉の歴史2					
4回	社会福祉の歴史3／貧困と福祉1					
5回	貧困と福祉2					
6回	高齢と福祉					
7回	障害と福祉1					
8回	障害と福祉2					
9回	難病と福祉					
10回	子育てと福祉1					
11回	子育てと福祉2					
12回	子育てと福祉3					
13回	児童家庭福祉の課題1					
14回	児童家庭福祉の課題2					
15回	児童家庭福祉の課題3					
試験等	あり					
[成績評価]						
定期試験の得点を基本に、提出自由の自主レポート（1通につき0～10点）＋授業中の質問（随時）に対する回答の得点。						
[準備学習（予習・復習等）の内容]						
予習は特に必要としませんが、前回の授業のプリントを見直しておくとお効果的です。						
復習は、授業での問題を再度、考え直してみる、図書館やインターネットで調べてみるなどで、取り組んでください。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	使用しません					
参考文献	特になし					
[備考]						
視聴覚教材としてビデオ・DVDの他に絵本を利用し、感じたことや思ったこと、考えたことを書いていただきます。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						

科目名 (英語名)	心理学B Psychology B		科目コード 222410	(ふりがな) 担当者	(かねしげ としのり) 金重 利典	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	前期	授業方法	講義/演習	
[履修条件、準備等] テキストがわりにプリントを配布しますので、A4 ファイルを用意してください グループディスカッション・ワークへの積極的参加を望みます						
[授業の具体的到達目標] 心理学における基本的用語・知識を習得する 人間のこころを科学的に明らかにする方法を知る 人間である自分についての理解を深める						
[授業の概要] 心理学の中心的なトピックを幅広く扱う概論です。心理学では、人間の「こころ」の働きをさまざまな方法を用いて明らかにしてきました。たくさんある「こころ」の側面について、自分と照らし合わせながら心理学を身近に感じてほしいと思います。ワーク・グループディスカッションで実際に使われる課題を行い理解を深めます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス：心理学とは					金重
2回	知覚・感覚について					金重
3回	学習について					金重
4回	記憶について					金重
5回	認知・思考について					金重
6回	感情・動機づけについて					金重
7回	パーソナリティについて					金重
8回	他者理解について					金重
9回	関係性・アタッチメントについて					金重
10回	言語について					金重
11回	発達について					金重
12回	社会・集団について					金重
13回	病理・臨床について					金重
14回	自己理解について					金重
15回	まとめ					金重
試験等	期末試験を行います					
[成績評価] 平常点 (20%)、毎回のリアクションペーパー (30%)、期末試験 (50%)						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 授業中に配布するプリントを各自整理・熟読してください						
	書名	著者	出版社			
テキスト	授業中にプリントを配付する					
参考文献	授業中に適宜紹介する					
[備考] 参考文献は授業中に適宜紹介する 質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付ける						

科目名 (英語名)	子ども・教育・社会 (Introduction to Pedagogy)		科目コード 252360	(ふりがな) 担当者	(さとう ちひろ) 佐藤 知条	専任・非常勤 専任
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義	
[履修条件, 準備等] 私語厳禁。違反者は警告ののち退室を命じる。 正当な理由なく遅刻した学生の出席は認めない。						
[授業の具体的到達目標] 「教えるー学ぶ」という人間特有とされる営みの重要性と、特に学校教育における現代的な課題について、具体的な事例を通して学び、考えられるようになること。						
[授業の概要] 私たちは教育問題、とくに学校に関する問題を個人的な経験から考え、解釈しがちである。しかし学校教育は社会的、制度的に構築されているために、社会や制度のあり方や変化によって私たちの個人的経験は方向づけられ規定されている。本授業では学校教育をめぐるさまざまな問題や歴史を取りあげながら、学校教育のあり方がどのように社会的に位置づけられ、また制度的に規定されてきたのかを考察していく。						
[授業計画]						[担当]
1回	イントロダクション：子どもの誕生・子ども観の変遷					佐藤
2回	学校について考えるいくつかの視点					佐藤
3回	学校の機能 (1)：中国農村部の事例から考える					佐藤
4回	学校の機能 (2)：中国都市部の事例から考える					佐藤
5回	学習指導要領の変遷					佐藤
6回	生涯学習の現代的な重要性：博物館の事例から考える					佐藤
7回	現代日本の教育改革：学校選択制、一貫教育校					佐藤
8回	学力問題：現在の学力低下論争の類型、学力調査の方法					佐藤
9回	総合学習／総合的な学習の時間：伊那小学校の事例から考える					佐藤
10回	言語力をめぐる問題：10歳の壁					佐藤
11回	中等教育の課題：思春期と学校教育、中等教育の2つの機能など					佐藤
12回	子どもの貧困と教育：教育の不平等に対して学校は何ができるか					佐藤
13回	子ども虐待					佐藤
14回	ヒドゥン・カリキュラム：社会階層の再生産、ジェンダー					佐藤
15回	まとめ					佐藤
試験等	以下のとおり。					
[成績評価] 平常点 (毎回のリアクションペーパー) 40%, 中間レポート 20%, 期末レポート 40%。						
[準備学習 (予習・復習等) の内容] 各回のレジュメは事前に公開する。各自で印刷して持参すること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	特になし					
参考文献	リーディングズ 日本の教育と社会		日本図書センター			
	教育改革をデザインする	佐藤学	岩波書店			
	教育方法学	佐藤学	岩波書店			
[備考] 上記以外の参考文献：Philip Jackson : <i>Life in Classrooms</i> , (1968), Henry Giroux : <i>Border Crossings</i> , 2nd ed., (2005), バーンステイン『言語社会化論』(明治図書出版, 1981年), ブルデュエ&パスロン『再生産』(藤原書店, 1991年), 山内乾史・原清治『論集 日本の学力問題』<上><下>(日本図書センター, 2010年), 日本教育方法学会編『デジタルメディア時代の教育方法』(図書文化, 2011年), 『学習指導要領』(各年度版)。これ以外は授業中に適宜紹介する。						

科目名 (英語名)	現代家族と子ども Family Psychology		科目コード 252405	(ふりがな) 担当者	(よこやま かつき) 横山 克貴	専任・非常勤 非常勤
	2単位	開講期	後期	授業方法	講義／演習	
[履修条件、準備等] ・レポーター担当や小グループでの話し合い時における積極的な発言を含め、授業への能動的な関与を求める。						
[授業の具体的到達目標] ・家族とは何かを理解したうえで、家族心理学の基礎知識を身につける。 ・現代家族の問題や状況について、自分の身に引きつけて考えることができるようになる。						
[授業の概要] 講義の序盤では家族心理学における基本的な概念を学びます。その後、結婚や子育てに関する、現代的な問題について追っていきます。講義の形式は、担当教員による講義や文献購読にビデオ鑑賞や体験学習を織り交ぜ、グループディスカッションを中心に進めていきます。						
[授業計画]						[担当]
1回	ガイダンス・家族とは何か					
2回	現代日本の家族					
3回	家族の成立と多様な家族					
4回	恋愛・パートナー選択／結婚の意味・価値					
5回	家族生活／夫婦のコミュニケーション					
6回	人類の親子／子どもの価値					
7回	親としての発達／いろいろな養育のかたち					
8回	子育て不安／子育て期の多重役割					
9回	人口革命／“つくる”時代の親と子					
10回	育児期家族にとっての夫・父親／母親の就労					
11回	家庭内暴力／父親と母親					
12回	中年期・老年期の親					
13回	家族をとりまく物的環境／家族を支える制度・政策					
14回	今、改めて「家族」とは何か？／家族の発達					
15回	まとめ					
試験等						
[成績評価] 平常点（毎回の振り返りレポート・授業態度）30%、授業での発表30%、期末レポート40%						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 事前にそれぞれの回で扱うテキストの該当箇所を読んだ上で授業に望むこと。 担当者は、それぞれの回で扱う該当箇所をレポートにまとめること。						
	書名	著者	出版社			
テキスト	家族心理学への招待 今、日本の家族は？ 家族の未来は？	柏木恵子、大野祥子、平山順子	ミネルヴァ書房			
参考文献	家族心理学—家族システムの発達と臨床的援助	中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子	有斐閣			
[備考] オフィスアワーは初回講義にてお知らせします。						

科目名 (英語名)	手話入門 SIGN LANGUAGE		科目コード	(ふりがな) 担当者	聴覚障害者協会派遣講師	専任・非常勤
			232397			非常勤
1単位	開講期	後期	授業方法	演習		
[履修条件、準備等] 受講者は最大 35 名とします。受講希望者が 35 名を超える場合には初回授業時に抽選を行い、受講者を決定します。						
[授業の具体的到達目標] ・聴覚障害に関する基礎知識、及び手話の基本語彙や文法を習得できるようになる。 ・それらを基に手話の表現能力のレベルアップができるようになる。						
[授業の概要] 身の回りの事柄を中心に手話の基本語彙や文法を学びながら、手話の表現を学びます。 また、聴覚障害者の生活を知り、手話による会話を通じて聴覚障害者との実践的なコミュニケーション能力のアップができるような授業です。						
[授業計画]						[担当]
1回	第1・2講座		伝え合ってみましょう			
2回	第3講座		名前を紹介しましょう			
3回	第4講座		家族を紹介しましょう			
4回	第5講座		数を使ってみましょう			
5回	第6講座		趣味について話しましょう			
6回	第7講座		仕事について話しましょう			
7回	第8講座		住所を紹介しましょう			
8回	第9講座		まとめ			
9回	第10講座		一日のことを話しましょう			
10回	第11講座		一か月のことを話しましょう			
11回	第12講座		一年のことを話しましょう			
12回	第13講座		パーティのことを話しましょう			
13回	第14講座		旅行のことを話しましょう			
14回	第15講座		病院の事を話しましょう			
15回	第16講座		学校のことを話しましょう			
試験等	期末試験を実施。					
[成績評価] 期末試験：70%、受講態度：30%として成績評価を行う。						
[準備学習（予習・復習等）の内容] 授業の復習をよく行い、理解を深めておくこと。						
	書名		著者	出版社		
テキスト	手話を学ぼう 手話で話そう			(財) 全日本聾唖連盟		
参考文献						
[備考] テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」(予価¥3,240)は初回授業時に販売します。 2名の講師により授業を行います。質問がある場合には授業終了後などに教室で受け付けます。						